

第2次 岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン



～育ちや学びがつながる・深まる  
岐阜県版接続期カリキュラム～



平成 30 年3月  
岐阜県教育委員会

## はじめに

岐阜県及び岐阜県教育委員会では、平成28年3月に「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」を策定し、「つながる・深まる幼児教育の推進」を掲げ、「3つのつながる」（「幼稚園や保育所等と小学校がつながる」、「幼稚園や保育所等において一人一人の幼児と教員・保育士がつながる」及び「幼稚園や保育所等と家庭や地域社会がつながる」）をキーワードに、取り組むべき施策を示しました。また、「3つの深まる」（①幼稚園や保育所、認定こども園と小学校の円滑な接続、②特別支援教育の体制整備、③子育て支援ネットワーク体制の確立と家庭学級を通じた乳幼児からの子育て支援）を重点的に取り組むべき内容とし、幼児期の子どもに関わる幼稚園や保育所、認定こども園、家庭や地域社会、行政機関等が、それぞれの役割を果たしながら、更なる幼児教育の充実を図っているところです。

平成29年3月に「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「保育所保育指針」が同時に公示されるとともに、「小学校学習指導要領」及び「中学校学習指導要領」も公示されました。これらの告示においても今まで以上に「幼児期における教育・保育が、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で大変重要なものである」ということが再認識されております。

また、幼保小の円滑な接続が、取り組むべき重要な課題となっており、幼児期の教育で終わるのではなく、その先も学び続ける、主体的に学ぶということを、幼児期の教育がどう支えていくのかが問われています。幼稚園や保育所、認定こども園側のみならず、小学校側から幼児期の教育への理解が深まり、幼児期の教育を生かした（踏まえた）指導へとつながるようにすることが求められているのです。

そこで、県教育委員会では、各園、学校等が、幼児期の教育から小学校教育への接続を一層円滑にするためのカリキュラムを作成する際の指針となるよう、「岐阜県版接続期カリキュラム」を作成いたしました。作成に当たっては、幼稚園、保育所及び小学校の教職員からなる幼保小連携資料作成委員会を立ち上げ、相互理解を深めるとともに、子どもの「育ちや学びをつなげる・深める」ための協議を重ねました。

本カリキュラムが、幼児期の教育から小学校教育へ、子どもたちの健やかな育ちや学びをつなげ、幼稚園や保育所、認定こども園と小学校の更なる連携が充実し、深まるための一助となることを心から願っております。

最後になりましたが、本カリキュラムの作成に当たって、御指導いただきました皆様、作成委員の皆様にご心より感謝を申し上げます。

平成30年3月

岐阜県教育委員会教育長

松川 禮子

## 目 次

### 第1部 理論編

#### 第1章 育ちや学びがつながる・深まる接続期カリキュラム

- 1 接続期カリキュラムの必要性・・・・・・・・・・ 3
- 2 接続期カリキュラムの考え方・・・・・・・・・・ 4

#### 第2章 幼児期の教育・保育と小学校教育の特徴

- 1 幼児期の教育・保育と小学校教育の違い・・・・・・・・・・ 6
- 2 接続期に育てたい三つの力・・・・・・・・・・ 7
- 3 幼児期の教育・保育の特徴・・・・・・・・・・ 8
- 4 小学校教育の特徴・・・・・・・・・・ 11

#### 第3章 幼児期における接続期カリキュラムについて

- 1 幼児期における接続期カリキュラムの作成に当たって・・・・・・・・・・ 14
- 2 現存の教育課程・保育課程を見直そう・・・・・・・・・・ 15
- 3 接続期カリキュラム実施のポイントは・・・・・・・・・・ 16

#### 第4章 小学校入学期における接続期カリキュラム（「スタートカリキュラム」）について

- 1 スタートカリキュラムの作成に当たって・・・・・・・・・・ 21
- 2 スタートカリキュラムをつくろう・・・・・・・・・・ 22
- 3 スタートカリキュラム実施のポイントは・・・・・・・・・・ 26

#### 岐阜県版接続期カリキュラム・・・・・・・・・・ 31

### 第2部 実践編

#### 第1章 接続期カリキュラムにおける具体的実践事例

～幼児期の教育と小学校教育のつながりのイメージ～

- 1 エピソードの見方について・・・・・・・・・・ 33
- 2 エピソード①「散歩へいこう」・・・・・・・・・・ 34
- エピソード②「つるびかだんご作り」・・・・・・・・・・ 35
- エピソード③「お弁当屋さん」・・・・・・・・・・ 36
- エピソード④「ドッジボール遊び」・・・・・・・・・・ 37
- エピソード⑤「しっぽとり遊び」・・・・・・・・・・ 38
- エピソード⑥「劇遊び」・・・・・・・・・・ 39
- エピソード⑦「当番活動」・・・・・・・・・・ 40
- エピソード⑧「てつぼう あきらめない」・・・・・・・・・・ 41

#### 第2章 スタートカリキュラムの実際

- 1 スタートカリキュラムグランドデザイン・・・・・・・・・・ 43
- 2 スタートカリキュラム週案作成のためのスタンダード・・・・・・・・・・ 44
- 3 スタートカリキュラム指導例
- スタートカリキュラムのある日の1日の流れ・・・・・・・・・・ 49
- 合科的な指導例1～4「わくわく ときどき がっこうたんけん」・・・・・・・・・・ 50
- 合科的な指導例5 「なつと なかよし」・・・・・・・・・・ 54
- 4 スタートカリキュラムのマネジメント・・・・・・・・・・ 55

「幼児期の教育」：教育基本法第11条が示す「幼児期」とは満1歳から就学前までの時期を指しますが、本カリキュラムにおいては、満3～5歳までを対象としています。

「教育」：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、満3歳以上の子どもに対して法律で定める学校において行われる教育を言います。

「保育」：保育を必要とする子どもに対して行われる児童福祉法に規定する保育を言います。

「教育及び保育」：「教育・保育」と示します。

## 第1部

### 第1章 育ちや学びがつながる・深まる接続期カリキュラム



## 1 接続期カリキュラムの必要性

子どもは、生まれた時から日々育ちを重ね、家庭から幼稚園や保育所、認定こども園へ、そして小学校へ、さらに中学校、高等学校、大学、社会へとつながっていきます。一人一人の子どもの健やかな成長を、子どもの教育・保育に関わっている全ての者が願っています。

子どもの成長にとって幼児期は、心情、意欲・態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。また、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、豊かな感性を養うとともに、学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探求心、社会性を涵養し、人間として、社会の一員として、よりよく生きるための基礎を体全体で吸収し、成長していく時期でもあります。

望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う幼児期の教育を充実させることは、一人一人がもつ無限の可能性の芽を伸ばすことにつながり、子どものこれからの人生を大きく左右すると言っても過言ではありません。

平成30年4月から施行される「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」にも、幼児期の教育・保育が、その後の小学校教育の生活や学習の基盤となるということ、そして幼児教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続が求められています。また、平成29年3月に公示された「小学校学習指導要領」においても、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の重要性が示されました。

円滑な接続は、互いの保育・教育を相互理解し、子どもの発達をしっかりと理解することから始まります。日常の保育や授業の中で、教職員は、子どもの具体的な姿を通して支援の言葉を考えたり、活動や授業を創造したりしていきます。その時、子どもの発達の特性と、それに基づいた育てたい子どもの姿をしっかりと捉えておくことが、連続性・一貫性をもった育ちと学びを支えていきます。

接続期カリキュラムは、このような考え方に立ち、子どもの育ちと学びを円滑に接続していくための具体的な保育や教育を示したものです。接続期のカリキュラムを整えることで、円滑な接続を促す保育や授業づくりが明確になり、健やかな子どもの育ちを支えることができます。

接続期カリキュラムの必要性はここにあります。

今、目の前の子どもたちが、これまでどのように育ってきたのか、また、これからどのように育っていくのかを教職員がしっかりと理解し、円滑に接続できるような環境を整えることは、一人一人の子どもの成長を支え、伸ばす大きな支援となるのです。



## 2 接続期カリキュラムの考え方

接続期カリキュラムは、幼児期の教育・保育から小学校教育への円滑な接続を図るものであり、幼児期の学びを小学校の学びにつなげるためのカリキュラムです。岐阜県では、5歳児4月から小学校入学期までを接続期とします。接続期カリキュラムは、幼児期における接続期カリキュラムと小学校入学期における接続期カリキュラム（「スタートカリキュラム」）から構成され、幼保小を貫く三つの視点（「自ら学ぶ力」、「人と関わる力」、「生活する力」）を基に発達と学びの連続性を明らかにしたものです。

一人の子どもの成長と学びは、途切れることなくつながっています。幼児期の子どもは、遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通して、総合的に学んでいきます。幼児は、遊びの楽しさを体いっぱいを感じながら、試行錯誤し、仲間と協同し、工夫する楽しさを見いだし、いきます。例えば、水道から樋をつないで水を流そうとして、水がこぼれない仕組みを幼児同士で何度も試したりすることや、お店屋さんを開こうと、紙やテープ、毛糸などの素材を生かして色や形を工夫して食べ物を作ったりすることなど、幼児の姿の中に小学校以降の学習の基盤は確実にあります。こうした学びを、小学校の生活科を中心とした学習において発揮できるようにし、児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが自然に他教科等の学習へとつながっていくようにすることが、幼児期における遊びを中心とした総合的な学びから教科等における学習に円滑に移行するということです。

つまり、教員（保育者）は、「幼児期の教育と小学校教育の接続を考えること」を通して、「子どもたちが連続的に学び育っていく存在であること」や「幼児期の学びや育ちを引き出し伸ばすことが大切であること」を理解し、幼児期の教育・保育と小学校教育のよさを取り入れ合い、長期的な視野をもった指導・援助を行うことが重要です。

### 接続期カリキュラム

幼児期

小学校入学期（「スタートカリキュラム」）




## 第1部

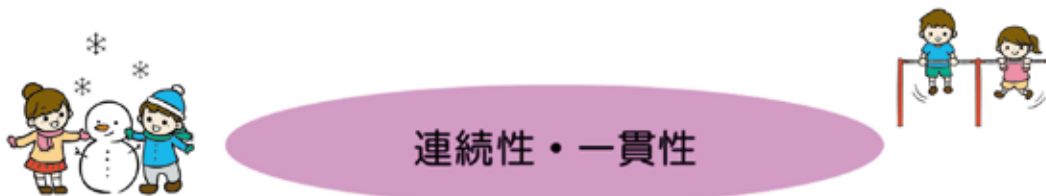
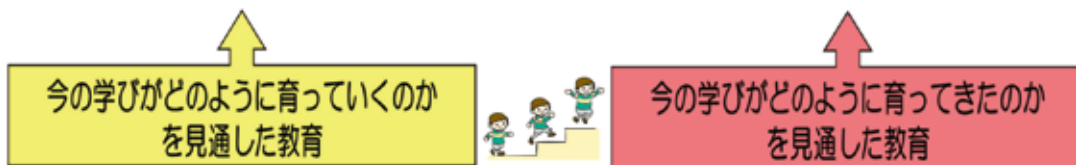
### 第2章 幼児期の教育・保育と小学校教育の特徴



# 1 幼児期の教育・保育と小学校教育の違い

幼児期の教育・保育と小学校の教育では、発達の段階の違いだけでなく、教育課程等の違いもあります。まずは相互を理解することが必要です。

 <b>幼児期の教育・保育</b>	 <b>小学校教育</b>
■基本的な生活の単位が1日	■45分を1単位とする
■興味・関心に応じた幼児の生活リズムに合わせた1日の流れ	■時間割に沿った1日の流れ
■各教科、道徳、特別活動等の区別がない	■各教科、道徳、特別活動等の学習
■幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラム	■学問体系の獲得を重視する教科カリキュラム
■5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を遊びや生活を通して総合的に学ぶ ・遊びそのものが学習（体験・経験による学び）	■各教科等の学習内容を系統的に学ぶ （体験を論理的思考につなげる学び）
■方向目標中心（ねらいは方向性） ・児童期以降の教育の方向付け（心情・意欲・態度等）を重視する ・～を感じる、～を味わう、～を楽しむという表現	■達成目標中心（ねらいは到達度） ・具体的な目標への達成度・到達度を重視する ・～することができる、～がわかるという表現
■環境を通して行う教育・保育 ・幼児が自分から進んで動き出したいくなるような環境 （物的環境・人的環境＝「人・もの・こと」が教材）	■教科書を使用し、教材を介して教師の指導助言により学習を進める ・教科書が主たる教材
■一人一人の興味・関心から、個やグループでの遊びや学びが多い	■学級単位で学ぶことが多い
■保育者や友だちと話し言葉でかかわる	■教師や友達と、話し言葉や書き言葉（読む・書く）でもかかわる
■個人内評価（他者との比較によらない絶対評価）	■評価規準（ABCによる目標準拠評価を前提とした絶対評価（他者との比較ではない）



幼児期の教育・保育と小学校教育との間には、このように教育課程や指導方法の相違点がある一方で、5歳児から小学校低学年までの発達の特性において、共通点もあります。円滑な接続を図るためには、共通点を相違点と調和させることが重要です。この時期の発達の特性として共通することは、「対象との直接的・具体的な関わりを通して学ぶ」ということです。直接的・具体的な対象との関わりとは、「人との関わり」と「ものとの関わり」です。



## 2 接続期に育てたい三つの力

平成22年11月に「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）が出されました。本報告では、「児童期の教育をはじめとした義務教育は、生涯にわたって自ら学ぶ態度を培う上で重要なものであるが、それらは児童期から突然始まるのではなく、幼児期との連続性・一貫性のある教育の中で成立するものである。」とし、「幼児期の教育（特に幼児期の終わり）と児童期の教育の目標を『学びの基礎力の育成』という一つのつながりとして捉えることとする。」としています。

また、「学びの基礎力の育成を図るため、幼児期（特に幼児期の終わり）から児童期（低学年）にかけての教育においては、『三つの自立』（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を養うことが必要である。」としています。学びの基礎力の育成のため、養うべき「三つの自立」は次のように示されています。

### 三つの自立

#### ◎学びの自立

自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら進んで行うとともに、人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること。

#### ◎生活上の自立

生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切に関わり、自らよりよい生活を創り出していくこと。

#### ◎精神的な自立

自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくこと。

さらに、「幼児期（特に幼児期の終わり）における学びの基礎力の育成において重要であるのは、幼児が人やものに興味をもち、関わる中で様々なことに気付くとともに、それらを深め、広げていく過程の中で、自己発揮と自己抑制を調整する力を育むことであり、それらを通じて、個人として、また社会の構成員としての自立への基礎を養うことである。」と示しています。

そこで、本接続期カリキュラムでは、幼児期の育ちと学びの芽生えの上に小学校以降の教育があるという報告書の趣旨を踏まえ、「三つの自立」につながる育成すべき力を、「三つの力」として、以下のように設定しました。

### 三つの力

「学びの自立」につながる → 自ら学ぶ力  
「精神的な自立」につながる → 人と関わる力  
「生活上の自立」につながる → 生活する力

この「三つの力」は、小学校以降の教育で育む「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」につながるものであり、幼児期の教育から小学校教育までをつなぎ、貫く力となります。

### 3 幼児期の教育・保育の特徴

#### ○環境を通して行う教育

幼児期の教育・保育では、保育者が教育内容に基づいた計画的な環境を作り出し、幼児期の教育・保育における見方・考え方を十分に生かしながら、その環境に関わって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち「環境を通して行う教育」が基本となっています。

環境を通して行う教育は、幼児との生活を大切にした教育・保育です。幼児が、教職員と共に生活する中で、ものや人などの様々な環境と出会い、それらとのふさわしい関わり方を身に付けていくこと、すなわち、教職員の支えを得ながら文化を獲得し、自己の可能性を開いていくことを大切にしていきます。

- ・教職員との信頼関係に支えられ、自分の存在が受け入れられているという安心感をもつことで、自立的な生活が確立されていきます。
- ・興味や関心から発した活動は幼児に充実感や満足感を与えます。
- ・友達と十分に関わって展開する生活を通して、幼児は自律性を身に付けます。

#### ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

平成29年公示の「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。これは、「幼稚園教育要領」等の第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園等修了時の具体的な姿であり、幼稚園等の教職員が指導を行う際に考慮するものとして、例えば幼稚園教育要領においては、次のように示されています。

##### (1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

##### (2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

##### (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

##### (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

##### (5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

## (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

## (7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえりをもって関わるようになる。

## (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

## (9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

## (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省）

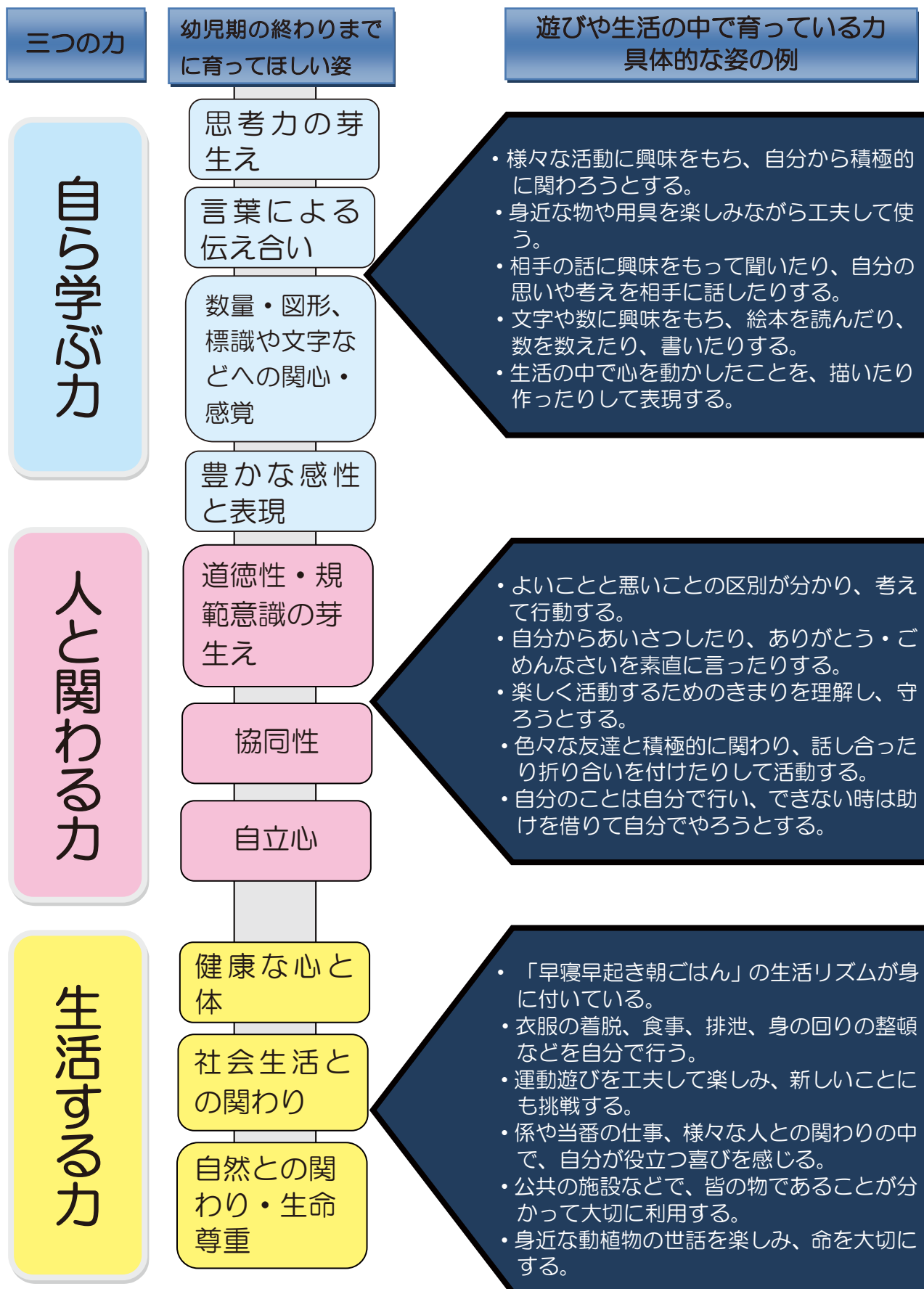
この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、各園等で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、「幼児期の教育に育みたい資質・能力」が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿ですが、次のことに留意する必要があります。

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導されるものではないこと。
- 一人一人の発達の特性に応じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないこと。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくこと。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、各園等の教師等が適切に関わることで、特に園生活の中で見られるようになる幼児の姿であること。

幼稚園教育要領解説（平成30年2月文部科学省）



○遊びの中で育っている力

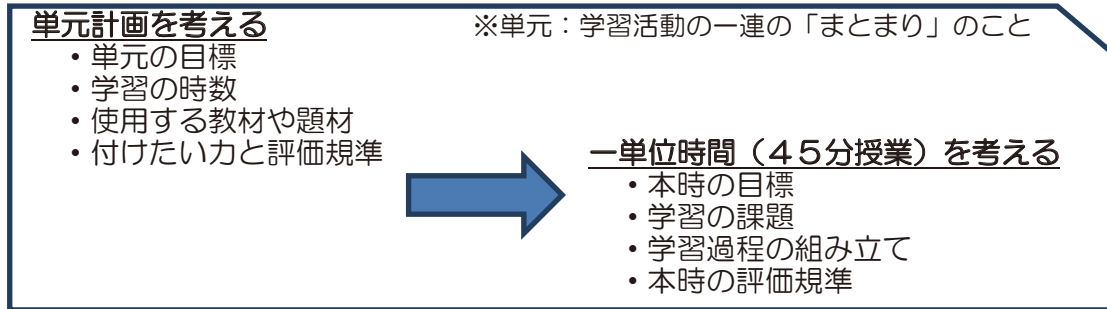


## 4 小学校教育の特徴

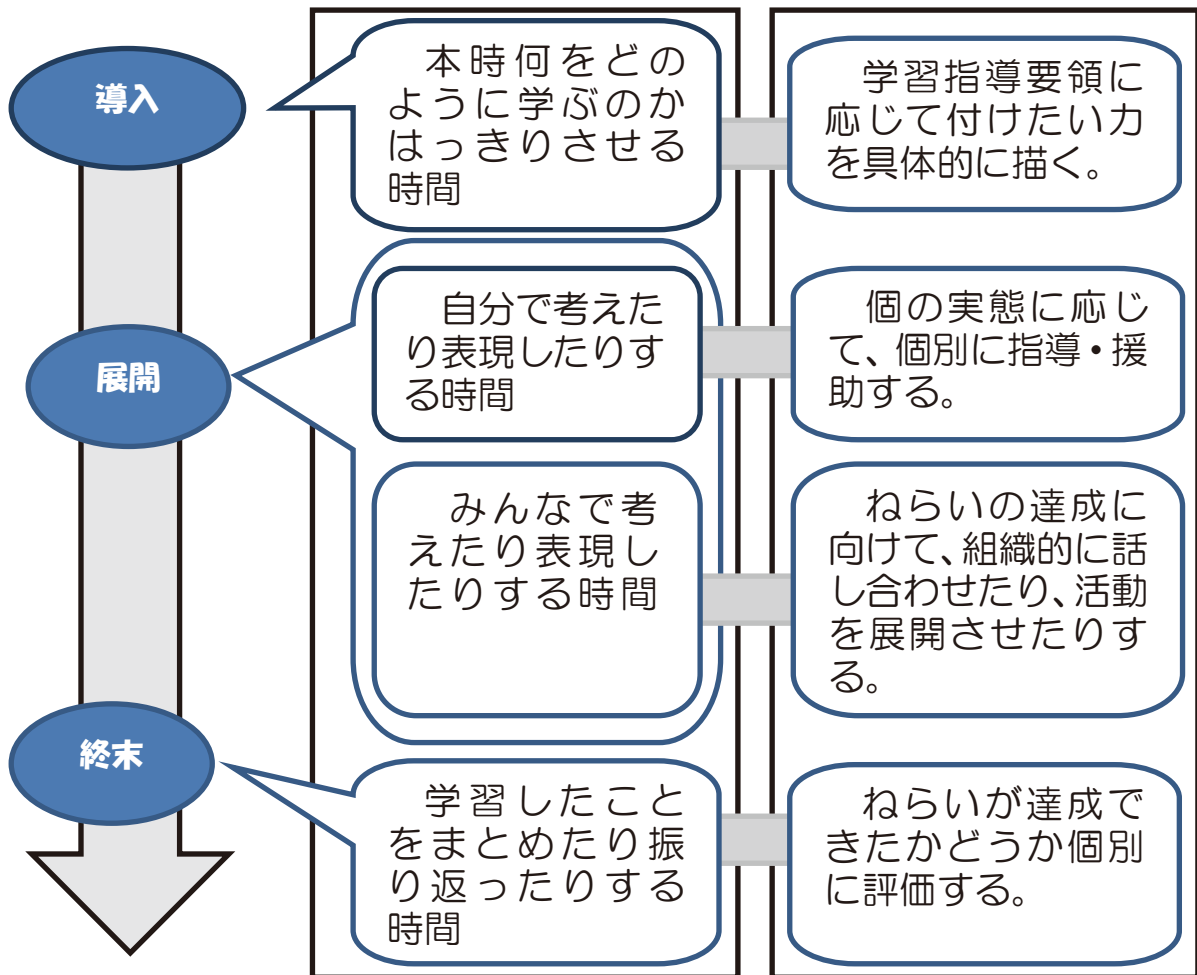
### ○小学校の一日の流れ（例）

8:00 登校	登校してすぐに外で遊ぶ児童もいます。	
8:30～ 8:40 朝の会	この時間には ・あいさつ ・朝の歌 ・健康観察 ・今日のめあて確認 等をします。 児童が自分たちで進めます。	
8:40～ 9:25 1時間目		
9:35～ 10:20 2時間目	午前中は4時間、午後は1～2時間の授業に取り組みます。	
10:20～ 10:40 業間休み		
10:40～ 11:25 3時間目	業間休みや昼休みには、戸外で友達と遊びます。上級生と一緒に遊ぶこともあります。遊びながら集団のルールを学んだり、他者への思いやりの心が養われたりします。	
11:35～ 12:20 4時間目	給食当番を決めて児童が調理します。学級活動の時間には栄養について学ぶ機会もあります。	
12:20～ 13:00 給食		
13:00～ 13:30 昼休み	自分たちの教室等、いつも使用する場所をほうきやぞうきん等の道具を使ってきれいにします。 任された仕事に時間いっぱい取り組みます。	
13:30～ 13:45 掃除		
13:55～ 14:40 5時間目	この時間には ・今日の振り返り ・明日の予定の確認 ・係からの連絡 ・帰りの歌 等をします。 教師からの今日一日の評価を聞き、明日の学校生活への意欲をもてるようにします。	
14:40～ 15:00 帰りの会		
15:00～ 下校	同じ方面の友達と下校をします。保護者の方や地域の方に見守っていただき、安全に下校ができます。学校の集会等では、全校児童で交通ルールや不審者対応について学ぶ機会もあります。	

○小学校での教育活動の流れ



一単位時間の流れ



**全員が「できた」・「分かった」と感じる授業づくりを目指します**

- 教科書を使用し、教室や特別教室、運動場などで学習します。
- 各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の年間指導計画に基づき、ねらいの達成に向けた授業を展開します。
- 評価規準を明らかにした評価を行います。

## 第1部

### 第3章 幼児期における接続期カリキュラムについて



# 1 幼児期における接続期カリキュラムの作成に当たって

幼児期における接続期カリキュラムは、幼児期の学びを小学校につなげるとともに、就学前の幼児がスムーズに小学校の生活や学習に適応できるための幼児期の教育修了前（5歳児の教育）におけるカリキュラムです。小学校のカリキュラムを先取りするものではなく、就学前までの幼児期にふさわしいものにすることが大切です。

幼児期における接続期カリキュラムを作成する際、「児童期のスタートにおける姿」を具体的にイメージし、「学びの芽生えの時期（幼児期）」と、「自覚的な学びの時期（児童期）」という発達の段階の違いからくる「遊びの中での学び」と「各教科などの授業を通じた学習」という「学び方の違い」を理解し、「幼児期の教育の特徴」を生かしたカリキュラムにすることが重要です。

## 【参考】小学校教育との接続に当たっての留意事項

幼保連携型認定こども園・教育保育要領

（平成29年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省告示）

### 第1章 総則

#### 第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

##### 1 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成等

##### (5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

ア 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）

### 第1章 総則

#### 第3 教育課程の役割と編成等

##### 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）

### 第2章 保育の内容

#### 4 保育の実施に関して留意すべき事項

##### (2) 小学校との連携

ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。



## 2 現存の教育課程・保育課程を見直そう

教育課程・保育課程が各園等で異なるため、教育・保育活動も地域や幼児の実態に応じて異なります。そこで、育てたい力や園等の重点課題等に沿って、岐阜県版接続期カリキュラムを参考に、現在の自園のカリキュラムを整理し、円滑な接続を見通した視点で接続期にふさわしいカリキュラムになるよう見直してみましょう。

### 【見直しの視点】

□幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識したカリキュラムになっていますか。

現存の教育課程・保育課程でも内容の中に「10の姿」は含まれていると考えられますが、接続期に何を重視して幼児に力を付けていくのかが明確になっていないことが多いようです。もう一度原点に戻って整理し、「10の姿」の内容と照らし合わせ見直していきましょう。

□幼児期の教育・保育とそれ以降の教育との関係を意識していますか。

幼児期における接続期カリキュラムが、小学校教育に適應する準備段階とするものではないことを念頭に置き、幼児期の教育・保育と小学校の教育との違いが明確になっているか見直していきましょう。

□幼児期の学びが、小学校の学習や生活につながるようなカリキュラムになっていますか。

一つ一つの遊びや生活の学びが、どのように育っていくのかを見通しながら、どんな遊びや生活を体験させることが、小学校の教育内容に興味関心をもたせていくのか考えましょう。

様々な遊びの中で楽しんだり、考えたり、工夫したり、もっとこうしたいと思ったりするように、幼児自身が遊びを展開させていく【学びの芽生え】から、小学校での各教科等の学習内容に興味をもち、自分の課題として受け止め、やってみたい、解いてみたいという意識をもつ【自覚的な学び】へつながっていくような内容になっていますか。

□学びの自立・生活上の自立・精神的な自立の三つの自立（P7参照）を養うことができるカリキュラムになっていますか。



### 3 接続期カリキュラム実施のポイントは

接続期カリキュラムの実施に当たっては、次の三点について配慮しましょう。

#### 【実施のポイント】

##### (1) 主体的に遊ぶ力を育てる

幼児と一緒に遊び込み、幼児と遊びを楽しみましょう。

##### (2) 人との関わりを通し、自分の考えを言葉で広げ深める力を育てる

遊びや生活の中での幼児同士の関わりや言葉のやりとりを細やかに捉えていきましょう。

##### (3) 思考力、判断力、表現力を育てる

幼児がわくわくドキドキするような楽しいと感じる環境を整えましょう。

以上の三点については、別々に育つものではなく、主体的な遊びを通して、関わる力や思考力、判断力が育ちます。切り離して考えるのではなく、総合的に考えていくものです。

#### (1) 主体的に遊ぶ力を育てる

主体的に遊ぶためには、安心感や安定感が必要です。それは、自分のことを受け止めてくれる人がいるという安心感、自分のことは自分でできる、自分の思いを相手に伝えるという自信からの安定感、自己肯定感があることで、周囲の様々な物・事・遊びに興味や関心を示し、積極的に働きかけ、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら次につながる「主体的に遊ぶ力」となっていくのです。

そのために教職員は、幼児が今何を楽しんでいるのか、見極めることが大切です。何に心を動かされ、何をしようとしているのかを知ること、環境を構成していきます。つまり、教職員が園等の環境に工夫を施したり、幼児の自発的なつぶやきを拾い、価値付けたりすることで、幼児は主体的になっていきます。まずは、教職員が心を動かし、共に遊びながら、幼児の言葉に耳を澄まし、幼児の姿を分析し、次の環境を考えていきましょう。



この花はどんな色が出るかな？

色水遊び



もっとたくさんとびたいな。

なわとび

## (2) 人との関わりを通し、自分の考えを言葉で広げ深める力を育てる

幼児は、いろいろな人と関わり、「自分の思いを出す」、「相手の思いに気が付く」など、自分から言葉で伝えたり、相手の言葉を聞いたりすることを積み重ねることで、より主体的に遊ぶようになります。また、言葉のやりとりを通して、「相手のよさに気が付く」、「知識を得る」など、物事に対する深い理解を得ます。言葉のやりとりを通して情報を得ることで、一人では気が付かなかったことに気付き、自分の考えがより確かなものへとなっていきます。一人ではできなかったことも、新しい知恵を得ることで新しい想像が生まれ、できるようになっていきます。

そのために教職員は、幼児の言葉のやりとりの内容を聞いて、どんな考えをもっているのか、何をしようとしているのかを探り、時には、対話を通して幼児の考えや方向を整理していきます。その時、幼児の言葉のやりとりそのものを認め、そのよさを具体的にほめていくことが大切です。

また、友達と気持ちを合わせて、遊ぶことの楽しさや一つの目的に向かって力を合わせる協同的な活動や遊びを更に取り入れていきます。その経験が、小学校の集団生活への土台となっていきます。



### (3) 思考力、判断力、表現力を育てる

幼児は、身近な環境に興味や関心をもち、「おもしろい」、「なんでだろう」、「もっとやってみよう」、「どうなるのかな」など、好奇心や探究心をもち、繰り返し関わる中で、新たな発見をしたり、どうすればもっと楽しくなるかを考えたりします。その体験を様々な場面で思い出し、使おうとしたり、試行錯誤を繰り返したりします。

教職員は、様々な遊びをしている幼児が、その知識は、最近の遊びから得たものか、あるいは、ずっと以前の経験が今生かされているものかなど、遊びと遊びの関連性を知る必要があります。その関連性の中で、繰り返し起きる新たな発見や感動が、さらに深くなるよう、幼児が面白いと感じる素材、材料などの物的環境を構成していくことが大切です。

タイヤをたくさん  
つけるといいよ。



Aさんのくるまは、  
はやくはしるね。

ここからはしらせたら  
どこまでいくな？

車作り

ちくちくいたいよ。  
どうして？



栽培活動（きゅうりの収穫）

どうやったらうまく  
いくな？



おもちゃ作り

資料「やってみると、こんないいこと！」



重たいけれど、がんばって片付けるよ！



ちょっと怖いけれどやってみよう。



ぼくの話は...



私は、さらさら粉をかけるね。

健康な心と体

豊かな感性と表現

自立心

言葉による伝え合い

協同性

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重



ここは、どうする？



みんなで力を合わせてがんばるぞ！

ここのお皿にクッキーをのせてね！



「あ」の字、見つけた！



早くよくなってくださいね。

♪花が咲いたら、じゃんけんぽん♪



筒の中に水を流すとどうなるかな？



この粉はさらさらだね。

## 第1部

### 第4章

## 小学校入学期における接続期カリキュラム（「スタートカリキュラム」）について



# 1 スタートカリキュラムの作成に当たって

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した子どもたちが、園等の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくために作成する1年生入学当初のカリキュラムです。

入学したばかりの1年生が「明日も学校に来たいな」と、意欲がかき立てられるようなカリキュラムを工夫し、学校生活に対する安心感と意欲をもてるようにすることで、幼児期の教育から各教科等の学習への円滑な接続を目指します。

## 【参考】幼児期の教育との円滑な接続についての記載

小学校学習指導要領 第1章 総則 第2 4 (1) (平成29年3月文部科学省告示)  
「(前略)低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫すること。(後略)」

## 小学校学習指導要領解説 生活編 第4章 1 指導計画作成上の配慮事項

(平成29年6月文部科学省)

(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な遊びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

## 【合科的な指導とは】

各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせ、学習活動を展開するものです。

## 【関連的な指導とは】

教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するものです。

## 【スタートカリキュラムの意義と作成のポイントについて】

子どもにとっては、遊び中心の生活から教科学習中心の生活へと生活スタイルが変化することは、かなり大きな「段差」です。これまでは、自分のしたい遊びを自分の力で実行する生活が中心でしたが、教科の学習となると、課題をどのように解決するのかが問われるからです。それと同時に、自力での登下校、時間割に基づく生活、施設・設備の違いなども子どもの立場からすれば「段差」です。そのとき、これまで経験してきた「遊び」の要素を多く含んだ活動に基づく日々が送れることは、子どもにとって「小学校でも、これまでやってきたことが通用するのだ」という自信がもてるきっかけとなります。



## 2 スタートカリキュラムをつくろう

### (1) 留意したい五つのポイント

スタートカリキュラムを作成する際には、次の五つのポイントに留意しましょう。

#### ①幼児期の経験や学びを生かしましょう。

この時期の児童の発達や個人差、それぞれの経験を踏まえたきめ細かい指導が必要です。そのためには、幼稚園・保育園等を参観し、教職員同士の意見交換を行ったり、要録等を活用したりして、児童の学び方や指導の仕方を知り、指導計画作成のヒントにしましょう。

#### ②生活科を中心とした合科的・関連的な指導をしましょう。

自分との関わりを通して総合的に物事を捉え、直接的・具体的な対象との関わりによって学ぶ児童の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導をしましょう。そうすることで、ゆったりとした時間の中で、自分の思いや願いの実現に向け、主体的に学び、学ぶことの楽しさを実感できるようになります。

#### ③発達を踏まえた時間割や学習活動を工夫しましょう。

この時期の児童は、長時間椅子に座っていることが難しい一方で、学習することに憧れをもっていたり、身体全体で体験を通して学んだりする特性があります。こうした発達の特性を踏まえ、合科的・関連的な指導を行うためには、15分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動や体験を多く取り入れたりしましょう。

#### ④安心感をもち、生活・学習できる環境を整えましょう。

児童が安心感をもち、自分の力で生活や学習ができるように学習環境を整えましょう。幼稚園・保育園等での環境構成を参考に校内環境を見直し、仲間づくりがすぐに行えるような机の配置、視覚に訴える掲示、集中しやすい教室環境など、児童が安心して、主体的に学びに向かえるように工夫しましょう。

#### ⑤職員全員で共通理解を図りましょう。

スタートカリキュラムの必要性を全職員で共通理解しましょう。そうすることによって、多くの支援を得て、きめ細かな対応をすることができます。また、他学年の児童との関わりを生むことにもつながり、小学校生活を安心してスタートさせることができ、その後の6年間の小学校生活を学校体制で、大きく支えることになります。





## (2) スタートカリキュラム作成の手順

スタートカリキュラムを以下の手順で作成するとよいでしょう。

### 【手順】

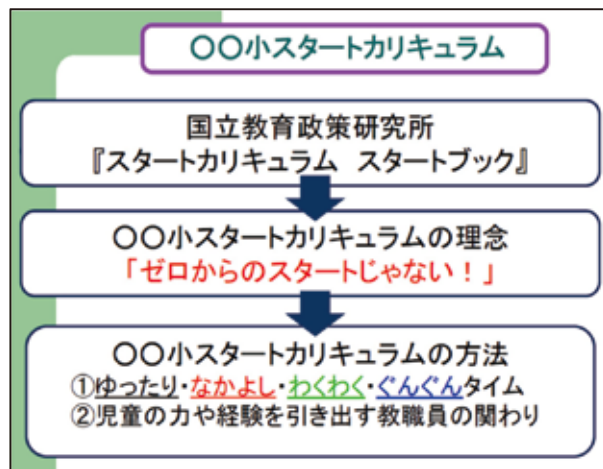
- (1) 幼児期の子どもを理解する  
遊びから学ぶ、幼児期の発達の特徴を踏まえる。
- (2) 期待する成長の姿を共有する  
安心して主体性、協同性を伸ばす児童の姿を目指す。
- (3) スタートカリキュラムを編成する
  - ① スタートカリキュラムのグランドデザインを描く。
  - ② 児童の思いや願いに即した1日の流れをつくる。
  - ③ 一月分の生活科を中核とした単元配列（合科・関連など）を考える。
  - ④ 週案スタンダードを作る。

＜ここでは、「手順（3）スタートカリキュラムを編成する」について、その具体を述べています。＞

### 【手順（3）－①】スタートカリキュラムのグランドデザインを描く

「スタートカリキュラムスタートブック」（国立教育政策研究所）を参考に、自校のスタートカリキュラムの理念を共有します。学校教育は決してゼロからのスタートではありません。年長児は、教員が思っている以上にいろいろなことを知っているし、経験しています。幼児教育で身に付けた力を引き出す指導観をもちましょう。

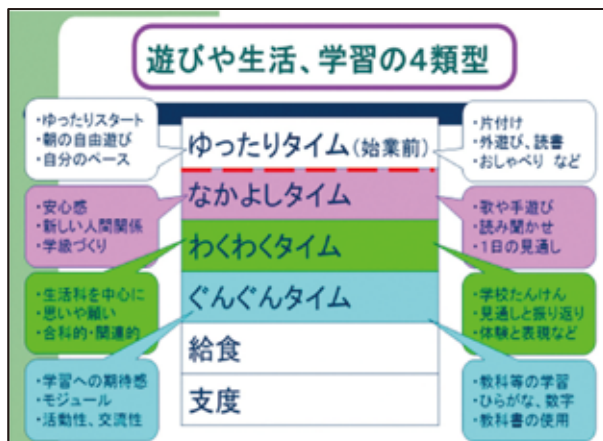
その上で、スタートカリキュラムの方法を考えていきます。1日の流れを園等での過ごし方を参考に、児童の思いや願いを大切に、「ゆったり、なかよし、わくわく、ぐんぐん」の四つの時間で構成していきます。そして、幼児教育で培ってきた力や経験を引き出していく教職員の関わりを大切にしましょう。



### 【手順（3）－②】児童の思いや願いに即した1日の流れをつくる

始業前の「ゆったりタイム」では、片付けや外遊び、読書、おしゃべりなど自分のペースでゆったりスタートします。安心感を生み出す「なかよしタイム」では、歌や手遊び、読み聞かせなどを行ったり、1日の見通しがもてるようにしたりすることを通して、新しい人間関係をつくり、学級経営の基盤づくりをします。

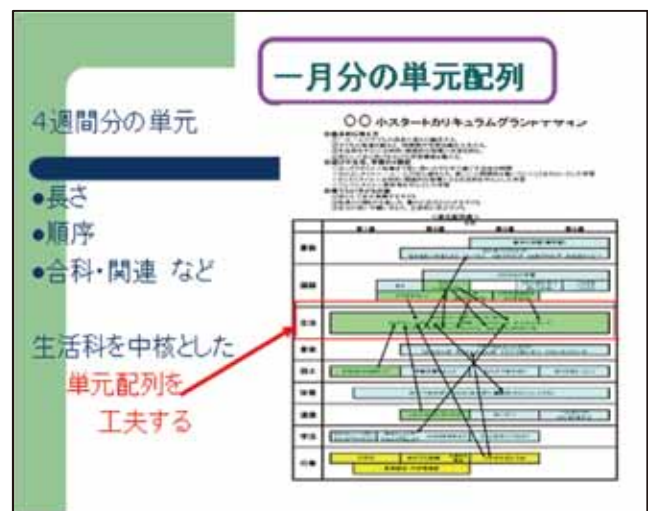
生活科を核として、自分たちのはてなを



解決する「わくわくタイム」では、学校たんけんを中心に合科的・関連的な授業を仕組みます。自分たちで活動の見通しをもち、体験を通して表現（振り返り）することの繰り返しの中で気付きを深めます。そうして学ぶ意欲を高め、「ぐんぐんタイム」（教科の学習）へと誘います。活動を多くしたり、友達と交流する場を設定したりするなど、発達の段階を考慮した授業づくりに心がけましょう。

**【手順（3）-③】一月分の生活科を中核とした（合科・関連など）単元配列を考える**

入学当初に育てたい児童の姿を明確にし、4週間分の単元配列表を作成します。カリキュラムの中核になるのは生活科です。生活科は、児童の思いや願いを大切にして授業を展開していくところが、幼児期の遊びや活動を通して総合的に学ぶ「学び方」にとってもよく似ています。生活科を中心にして他教科・領域・学校行事などの関連を見通すことで、学校生活の全てを通して、育てたい児童の姿を目指していけるようにします。

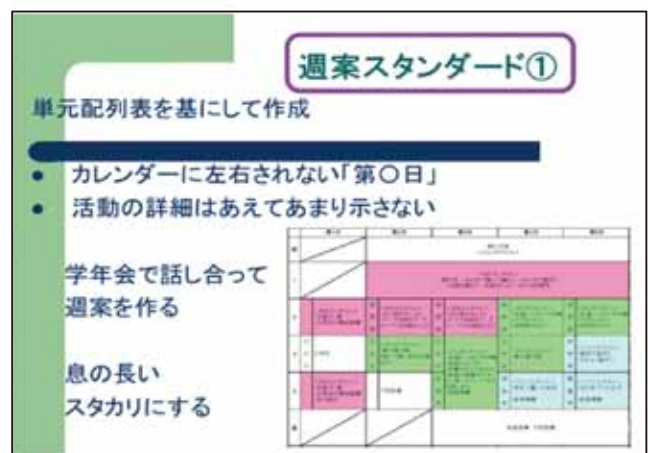


**【手順（3）-④】週案スタンダードを作る**

単元配列表を基にして、週案のスタンダードを作ります。カレンダーに左右されない「第〇日」として、基本形を示します。活動の詳細はあえてあまり示さないようにして、スタンダードとして毎年改善しながら使えるようにしていきます。その年度の児童の実態に合わせ、学年会で話し合って週案を作るようにしましょう。また、エクセルで作成することで、表計算ができるようになり、5月以降の週案に連動していくようにします。学校の共有できる財産として、息の長いスタートカリキュラムにしていくことが大切です。

週案を1週目から4週目へと横に見ていくと、徐々に「なかよしタイム」が減って、「ぐんぐんタイム」が増えていきます。つまり、遊びから学習へ移行するように仕組みていきます。

そして、1日の流れを縦に見ると、児童の思いや願いに即して遊びから学習へと移行する



ようにつくります。これまでのカリキュラムデザインの考え方にはなかった、まさに児童  
中心の発想でつくるカリキュラムです。



### 3 スタートカリキュラム実施のポイントは

スタートカリキュラムの実施に当たっては、次の五点について配慮しましょう。

#### 【実施のポイント】

- (1) 教職員の関わり・言葉かけを変えてみる
- (2) 安心できる環境づくりをする
- (3) 「なかよしタイム」で心をほぐし、仲間をつくる
- (4) 「学校たんけん」の発想を変える
- (5) 児童主体の学びのストーリーをつくる

#### (1) 教職員の関わり・言葉かけを変えてみる

幼児教育で、児童は、遊びを通して様々な経験をし、様々な力を身に付けています。そうした児童理解を踏まえ、教職員は、教え込むのではなく、児童の力を信じて引き出し、価値付けることが大切です。さらに、児童の思いや願いを引き出し、方向付けをすることで、児童は、安心して自己発揮し、主体性を伸ばすことができます。

※具体的な教職員の言葉かけ例：「幼稚園・保育園等ではどうだった？」

「こんなとき、どうしてた？」

「これから何したい？みんなはどうしたい？」

#### (2) 安心できる環境づくりをする

一見して見通しがもて、振り返ることができる掲示の工夫や、仲間づくりがすぐにできるような机の配列をしましょう。ユニバーサルデザインの発想を生かして、前面黒板はすっきり整えることで、一人一人が集中力を高めて生活や学習ができるようにしましょう。また、幼稚園・保育園等で行われている環境設定を参考に、安心できる環境づくりを心がけましょう。



### (3) 「なかよしタイム」で心をほぐし、仲間をつくる

「なかよしタイム」は、一人一人が安心感をもって、新しい人間関係を築いていくことをねらいとして設定します。幼稚園・保育園等で行ってきた手遊びや読み聞かせなどから1日の生活を始めることで、児童の不安や緊張を少なくすることができます。また、徐々に学習の要素を取り入れていくことで、無理なく教科学習に移行できるように工夫します。



手遊び



身体を動かすゲーム



ペアでじゃんけん



グループでゲーム

### (4) 「学校たんけん」の発想を変える

この時期の児童は、学校のことに関心津々です。その新鮮な思いを活動の原動力にしていきましょう。朝の「ゆったりタイム」で「学校のふしぎ」を見付け、「わくわくタイム」で1年生だけの「たんけん」に繰り出すことで、主体性を発揮することができます。その上で、まだ解決できない疑問を2年生と関わる中で解決するといった活動を仕組むことで、自分たちの課題を自分たちで解決していく学び方を身に付けることができます。



まずは1年生だけで



2年生が1年生に聞いて教えたいことを決める





2年生に自分たちの疑問を聞く



解決した課題を振り返る

### (5) 児童主体の学びのストーリーをつくる

「学校たんけん」の学習を中核にして、国語、図画工作、体育、音楽など他教科へと「学びのストーリー」をつくることで、児童主体の授業になります。つまり、児童の探究の先に自然に各教科の学習が続くように、一日の教科の配列を考えることで、児童主体の学習をつくり出すことができるということです。まさに、遊びの中から総合的に学ぶ幼児期の学び方を参考にして学習計画を立てることのよさが表れてきます。



おもしろいものを  
いっぱい見つけた



絵にかきたい!



文字でつたえたい!



言葉でつたえたい!

くんくんタイム 体育



みんなに知らせたい!

くんくんタイム 国語

線を見つけたよ!



見つけたボールと  
線でころがしドッジしよう!



ふしぎなおとがするもの  
のいっぱい!

くんくんタイム 音楽

この歌を歌いたいな!

## 資料「やってみると、こんないいこと！」

### 1年生にとっては

- 安心から自信と意欲へ
- ・「はっけん」と「はてな」の連続
- ・学びに向かう意欲の高まり



### 上級生にとっては

- 「1年生すごい！できるようになったね！」
- 「もっとなかよくしたいな！」
- ・給食待ち時間に読み聞かせ
- ・がっこうたんけんサポート→いきものランドへ招待



### 担任にとっては

- ・朝からゆとりあるスタート
- ・一人一人を見てじっくりとかかわる余裕
- ・毎日ほぼ同じ流れ→担任にとっても見通し&安心



### 保護者にとっては

- ・学校体制で取り組んでもらえることを知り、不安が解消
- ・我が子の様子を見て、安心



### ◎スタートカリキュラムによって

1年生は、安心して生活することで、自分の力を発揮し、自信や意欲をもって学びに向かうことができます。保護者は、その姿を見て、学校生活への不安が解消され、安心して学校に送り出すことができます。

上級生は、1年生と関わることを通して、みんなが仲良くすることの大切さを学び、上級生としての自覚と責任をもつことにつながります。

1年生の担任は、「幼児教育で培われた力を引き出すことが大切だ」と、これまでの指導観が変わります。そして、一人一人をじっくり見て、見通しをもって支援することができます。



# 岐阜県版接続期カリキュラム





岐阜県版接続期カリキュラム (子どもの「育ちと学び」を円滑に接続するためのカリキュラム)

		幼児期					小学校入学期
月		4月～5月 【5歳児前期】	6月～8月 【5歳児前期～5歳児中期】	9月～11月 【5歳児中期】	12月～1月 【5歳児後期】	2月～3月 【5歳児後期】	小学校入学～4週間 (スタートカリキュラム)
ねらい		・年長になった喜びと自覚を感じ、意欲的に園生活を過ごす。	・身近な自然や環境に関わり、友達との遊びを広げる。	・友達と一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わう。	・共通の目的をもって、友達と考えを出し合って遊ぶ。 ・目的や課題に向かい、根気よく取り組んだり、工夫したりしてやり遂げた喜びを味わう。	・小学生になることに期待をもち、自分たちで自信をもって行動する。 ・クラスや仲間と共通の目的や見通しをもって取り組み、達成感を味わう。	・小学校での新しい生活に自分らしさを発揮し、仲間と一緒に生活や学習にのびのびと取り組む。
視 点	自ら学ぶ力 ・思考力の芽生え ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	・物や遊びに興味・関心をもつ。 ・草花の名前を調べ、自然物を使って遊ぶ。 ・絵本や図鑑に親しむ。	・素材や道具の特性を知り、考えて遊ぶ。 ・植物を栽培し、観察したり収穫したりする。 ・様々な体験を通して好奇心や探求心を抱き、自分なりに考え、試行錯誤しながら遊ぶ。 ・考えたことや経験したことを伝えようとする。	・自然の移り変わりに気付き、遊びに取り入れられたり、調べたりする。 ・いろいろな遊びを通して、考えたり、工夫したり、試したりする。 ・文字や数に興味・関心をもち、遊びの中に取り入れて楽しく遊ぶ。 ・絵本や物語などの面白さが分かり、想像して楽しむ。	・冬の自然現象に興味をもち、見たり試したりする。 ・文字に興味・関心をもち、生活の中で文字を使って伝える楽しさを味わう。 ・人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話したりする。 ・イメージを膨らませ、友達と一緒に表現する楽しさを味わう。	・数量や図形、文字等に関心をもち、生活や遊びの中に取り入れて遊ぶ。 ・様々な体験や経験を繰り返し、歌、言葉、踊りなど、いろいろな方法で表現することを楽しむ。	・学習に興味や関心をもち、疑問に思ったことに対して主体的に解決しようとする。 ・数量や図形、標識や文字などを使った学習に関心をもって取り組むことができる。 ・学習の中で発見したことを言葉で表現することができる。 ・音楽や造形、身体による表現など、自分の気持ちや考えを、表現することを楽しむことができる。
	人と関わる力 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え	・先生や友達に親しみをもち、園生活を楽しむ。 ・気の合った友達と遊びを進める。 ・新入園児に親しみをもち、優しくしたり一緒に遊んだりする。	・友達に思ったことを伝えたり、相手の考えを聞こうとしたりする。 ・ルールを守って遊ぶ。	・行事の中で役割を受けもち、意識して行動する。 ・集団行動を意識し、みんなと一緒に行動する。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いに気付いたりする。 ・ルールや勝敗の意味が分かり、互いに力を合わせて運動遊びを楽しむ。 ・友達とのトラブルが起きた時は、みんなで話し合っ解決しようとする。	・友達と一緒に遊ぶ中で、折り合いを付け、自分の気持ちを調整する。 ・友達と互いのよさを認め合いながら遊ぶ。 ・よいことや悪いことが分かり、考えながら行動する。	・友達の様子に気付き、手助けをする。 ・仲間と協力し合っ活動に取り組む。 ・共通の目的に向かって、クラスのみならずで分担したり、協力したりする。 ・異年齢児に優しく接したり、遊びに誘ったりする。	・自分でできることは自分でしようと積極的に取り組んだり、生活や学習での課題に意欲的に取り組んだりする。 ・「1年生を迎える会」など目的に向かって、自分の力を発揮しながら友達と協力して取り組むことができる。 ・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりすることを通して、ルールをつくったり、ルールを守ったりして学校生活を楽しくしていこうとする。
	生活する力 ・健康な心と体 ・社会生活との関わり ・自然との関わり・生命尊重	・戸外で十分に体を使って遊ぶ。 ・友達と一緒に食事に必要な準備や片付けをし、マナーを守って楽しく食事をする。 ・身近な人に親しみをもって挨拶をする。 ・新しい環境に慣れる。 ・基本的な生活習慣を自ら身に付ける。 ・遊びの支度や後片付けを進んで行う。 ・春の自然や身近な小動物に興味や関心をもち、関わりを楽しむ。	・体を思いきり動かし、進んで運動をしようとする。 ・汗をかいた時には、自ら水分補給をしたり、汗を拭いたり着替えたりする。 ・生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ・集団生活に必要なきまりを知り、守ろうとする。 ・身近な小動物に親しみ、愛情をもつ。	・友達と競い合ったり協力し合ったりして、全身を動かして遊ぶ。 ・一日の生活の流れを意識して行動する。 ・共同で使う道具や用具を大切に使う。 ・地域の人やお年寄り、自分の生活に関わりのある人に親しみや感謝の気持ちをもつ。 ・飼育・栽培を通して命の尊さを感じる。	・自分で判断し、安全に気を付けて行動する。 ・風邪予防の手洗い・うがいを自発的に行う。 ・自分なりの課題をもって、今までできなかったことに挑戦する。	・活動の区切りや時間を意識して行動しようとする。 ・就学への期待をもち、自信をもって行動する。 ・お世話になった身近な人への感謝の気持ちをもつ。	・安全に気を付けて学校生活を送ることができる。 ・運動遊びや休み時間などの外遊びを通して、のびのびと行動することができる。 ・相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむことができる。 ・学校マップなどの掲示物を活用し、学習に必要な情報を見付けることができる。 ・自分たちの生活に関わりのある地域の人に進んで挨拶をする。 ・自然の事物や現象について関心をもち、積極的に関わるができる。
主な活動	入園式・進級式  当番活動 春の自然物を使った遊び 散歩 (P 34 参照)	七夕会 水遊び・プール遊び 小動物の飼育・夏野菜の栽培・収穫 夏まつりごっこ 秋みつけ・お店屋さんごっこ つるびかだんご作り (P 35 参照) 当番活動 (P 40 参照)	始業式・運動会・敬老会・作品展 遠足 運動会ごっこ・秋野菜の収穫 お弁当屋さん (P 36 参照) 秋みつけ・お店屋さんごっこ 虫みつけ・しっぽとり遊び (P 38 参照) ドッジボール遊び (P 37 参照)	学校見学・劇遊び・楽器遊び  お正月遊び・郵便ごっこ 雪遊び てつぼう (P 41 参照)	卒園式・お別れ会・ありがとうの会  春見つけ 劇遊び (P 39 参照)	入学式・学校探検・1年生を迎える会 「わくわく どきどき がっこうたんけん」 (P 50～P 53 参照)	
小学校に向けての気持ち						「小学校って楽しいな」 「友達がたくさんできたよ」 「自分からチャレンジするぞ」	
子どもへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境の中で、安心して自分の思いが出せるような雰囲気を作る。</li> <li>・幼児の思いやイメージを大切に、イメージが実現できるよう寄り添い、一緒に考えながら活動を進める。</li> <li>・一人一人が力を発揮している姿を認め、周りの子に広めていく。</li> <li>・一人一人のよさを伝え合い、幼児同士の関わりがさらに深まるように援助する。</li> <li>・友達同士のよさが認め合えるような関係づくりを援助する。</li> <li>・自分達でトラブルを解決していこうとする姿を認めて見守ったり、仲介役になったりしながら、自分達で解決できた心地よさを味わえるようにする。</li> <li>・互いのよさに気付き、分かり合う喜びを感じ合えるように援助する。</li> <li>・新しい生活に向けての期待と不安を受け止め、自信や自覚へつなげる。</li> </ul>					・幼稚園や保育園等での経験や学びを生かす。 ・安心できる環境作りをする。 ・発達を踏まえた時間割や学習活動を工夫する。	
家庭・地域との連携 (家庭○・地域☆)	○園だよりの配布・連絡帳等の活用 ○PTA総会 (1年間の見通し)	○保育参観日	○個人懇談	○運動会	○保育参観日	○個人懇談 ○読書週間 (園での読み聞かせ) ○学校見学・就学時検診 (保護者の疑問や不安を集約する)	○生活発表会 ○入学式 (1年間の見通し) ○PTA総会
	☆園だよりの回覧・配布	☆地域参観日 ☆夏野菜の栽培・収穫のサポーター	☆運動会への招待 ☆敬老会	☆地域参観日 ☆秋野菜の栽培・収穫のサポーター	☆生活発表会への招待 ☆ありがとうの会	☆お正月遊び (昔遊び) の先生	☆学校だよりの回覧・配布 ☆地域見守り隊への挨拶

## 第2部

### 第1章

### 接続期カリキュラムにおける具体的実践事例 ～幼児期の教育と小学校教育のつながりのイメージ～



※この章では、幼児期における接続期カリキュラムの実践が小学校教育とどのようにつながるかについて、8の実践事例をあげています。

**5歳児 「散歩へいこう（活動名）」（自ら学ぶ力）**

**時期** 4月下旬

**ねらい** 春の自然や身近な小動物に興味や関心をもって関わり楽しむ。

**内容** 身近な虫や草花に興味をもって遊ぶ。

春を彩る花が咲き、虫もたくさんいる堤防へ出かけることにした。  
 A児「てんとう虫って何を食べるの？」  
 保育者「何かな？」と、自分たちで考え行動できるようにあえて教えるのをやめた。  
 A児「図鑑に書いてあった。」と、教材付録の図鑑に春の虫や花について載っていたことに気が付いた。  
 保育者「残念、今日は図鑑がないから今度来たときに持ってこようね。」  
 次に、堤防へ出かける前に必要なものはないか話し合うことにした。  
 A児「図鑑がいるよ。」C児「花束を作るからリボンが欲しい。」と、それぞれが以前遊んだときに欲しかったものを持って出かけることにした。  
 B児「ねえ、てんとう虫って何を食べるの。」  
 A児「アブラムシだよ。図鑑に書いてあるよ。」と言って、二人で図鑑を見た後、駆け出して行った。  
 その後、二人は園庭でも図鑑をもって虫探しをするようになった。

<身近な自然に興味をもち調べたり試したりする>

幼児は、身近な事物や出来事、自然などに対して、興味をもち、もっと関わりたいと思う。驚きをもって見つめるといった関わりを通して、親しみを感じ、好きになる。また、生命あるものに対しては、その生命を大切に守り、生命の不思議さなどを突き詰めてみたいといった探究心をもつようになる。この探究心が自ら学ぶ力の土台になる。

**国語科**

**単元・領域**  
「ほんはともだち」

**目 標**

- ・知りたいことや興味をもったことを調べるために、その事柄について説明した本や文章を進んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・自分の知りたいことや興味をもったことについて、なぜそうなのか、文章から見付けながら読んでいる。【読むこと】

**主な学習活動**

- ・自分が興味をもった本を選び、おもしろいところや楽しく感じるところを見付けながら読む。
- ・読んだ本の気に入ったところをみんなに紹介する。

**生活科**

**単元・領域**  
大単元「がっこう だいすき」  
小単元「こうていを あるいてみよう」

**目 標**

- ・校庭の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりすることを通して、季節や校庭の様子に気付くことができる。
- ・おもしろいと思ったことや興味をもてるものを見つけ、友達と楽しく学習することを通してこれからの学習に関心をもつことができる。

**主な学習活動**

- ・校庭を歩いてみて、どのような草花や生き物がいるのか、見付ける。
- ・校庭で見付けたことなどを教師や友達に話す。

5歳児の「散歩へ行こう」の活動は、例えば、このような教科の学びにつながっています。  
 （「散歩へ行こう」→「生活科：がっこうだいすき」だけにつながるわけではありません。）  
 このように、幼児期に育まれた資質・能力が、小学校の様々な教科・領域等につながっているという例を示したものです。

幼児期の教育において育みたい資質・能力は、5領域に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものです。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】の考え方

- これらの姿が到達すべき目標ではありません。
- 個別に取り出されて指導されるものではありません。
- 全ての幼児に同じように見られるものではありません。
- 5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意しましょう。

ゼロからのスタート  
ではない

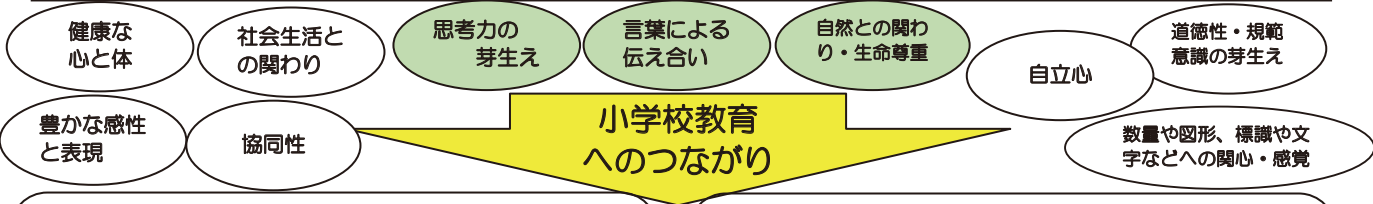
# 5歳児 「散歩へいこう（活動名）」（自ら学ぶ力）

時期	4月下旬
ねらい	春の自然や身近な小動物に興味や関心をもって関わり親しむ。
内容	身近な虫や草花に興味をもって遊ぶ。

春を彩る花が咲き、虫もたくさんいる堤防へ出かけることにした。  
 A児「てんとう虫って何を食べるの？」  
 保育者「何か？」と、自分たちで考え行動できるようにあえて教えるのをやめた。  
 A児「そうだ、図鑑に書いてあった。」と、教材付録の図鑑に春の虫や花について載っていたことに気が付いた。  
 保育者「残念、今日は図鑑がないから今度来るときに持ってこようね。」  
 次に、堤防へ出かける前に必要なものはないか話し合うことにした。  
 A児「図鑑がいるよ。」C児「花束を作るからリボンが欲しい。」と、それぞれが以前遊んだときに欲しかったものを持って出かけることにした。  
 B児「ねえ、てんとう虫って何を食べるの。」  
 A児「アブラムシだよ。図鑑に書いてあるよ。」と言って、二人で図鑑を見た後、駆け出して行った。  
 その後、二人は園庭でも図鑑をもって虫探しをするようになった。

**<身近な自然に興味をもち調べたり試したりする>**

幼児は、身近な事物や出来事、自然などに対して、興味をもち、もっと関わりたいと思う。驚きをもって見つめるといった関わりを通して、親しみを感じ、好きになる。また、生命あるものに対しては、その生命を大切に守り、生命の不思議さなどを突き詰めてみたいといった探究心をもつようになる。この探究心が自ら学ぶ力の土台になる。



## 国語科

**単元・領域**  
「ほんはともだち」

**目 標**

- ・知りたいことや興味をもったことを調べるために、その事柄について説明した本や文章を進んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・自分の知りたいことや興味をもったことについて、なぜそうなるのか、文章から見付けながら読んでいる。【読むこと】

**主な学習活動**

- ・自分が興味をもった本を選び、おもしろいところや楽しく感じる場所を見付けながら読む。
- ・読んだ本の気に入ったところをみんなに紹介する。

## 生活科

**単元・領域**  
大単元「がっこう だいすき」  
小単元「こうていを あるいてみよう」

**目 標**

- ・校庭の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりすることを通して、季節や校庭の様子に気付くことができる。
- ・おもしろいと思ったことや興味をもてるものを見つけ、友達と楽しく学習することを通してこれからの学習に関心をもつことができる。

**主な学習活動**

- ・校庭を歩いてみて、どのような草花や生き物がいるのか、見付ける。
- ・校庭で見付けたことなどを教師や友達に話す。

## 5歳児 「つるぴかだんご作り（活動名）」（自ら学ぶ力）

時 期

6月頃

ね ら い

考えたこと、経験したことをもとにだんご作りを楽しむ。

内 容

楽しんでだんご作りを行い、自分の思いや考えを伝えて遊ぶ。

「先生、今日つるぴかだんご一緒に作れる？」A児が保育者を誘いに来た。

「いいよ。」「やったあ。」他に4人の年中組の幼児も誘って、一緒に作るようになった。

「冒険山に行くよ。はじめにこんな石があるといいんだ。」

そう言ってA児は冒険山の土を掘り始めた。

「硬い土を掘るんだよ。大きい団子を作りたい人は、たくさん掘らないとね。」

「先生は、大きい団子を作りたいなあ。これくらいかな。」

保育者が差し出すと、

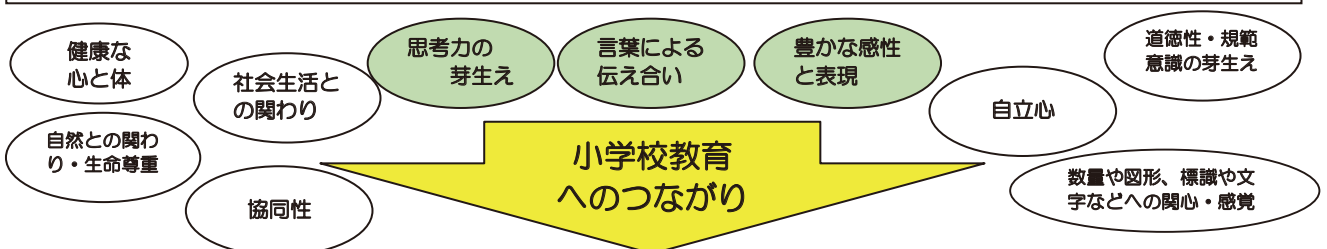
「ちょっと待って。だんごを作る時にごろごろの石があると、でこぼこの団子になるから出さないよね。それから、少し水を入れると固まるよ。」

「丸く固まったらバス乗り場の前に行くよ。あそこが一番。」両手で白粉を山のように集めると、「この白粉を付けてころころ手のひらで転がすんだよ。強く押さえるとひびが入るから気をつけてね。」

失敗しそうになった時も慌てず優しく教えてくれたり、白粉をいっぱい集めると分けてくれたりするなど、言葉巧みに教える姿は自信に満ちあふれていた。

### <経験したことを相手に分かるように話す>

生活体験が具体的なイメージとして心の中に豊富に蓄積されていくことが大切である。こういった経験の積み重ねが、言葉を理解し豊かに表現するための土台となる。



### 生活科

単元・領域

大単元「なつだ あそぼう」

小単元「みずで あそぼう」

目 標

体全体を使って水と戯れたり、水を利用して遊ぶおもちゃを工夫してつくったりしながら、水の性質の不思議さや面白さに気づき、友達と遊びを楽しむことができる。

主な学習活動

- 道具を工夫したり、吹き方を工夫したりしながら、シャボン玉遊びを楽しむ。
- 道具の工夫や吹き方の工夫などを友達と伝え合い、みんなでシャボン玉遊びを楽しむ。

### 図画工作科

単元・領域

「つちやすとなかよし」

目 標

砂や土の感触を十分に味わいながら、造形的な活動を思い付き、楽しむ。

主な学習活動

- 体全体で活動することを知り、どのようなことができそうか考え、グループや個人で、材料や用具も使い、思い付いたことを試しながら体全体で活動する。
- 掘ったり、並べたり、積んだりしながら思い付いたことを存分に試し、好きな形やつくりたいものをつくる。

## 5歳児 「お弁当屋さん（活動名）」（自ら学ぶ力）

時期 11月頃

ねらい 文字や数に興味や関心をもち、遊びの中で取り入れて楽しく遊ぶ。

内容 友だちと役割を決めて、物の売り買いを楽しみながらお弁当屋さんを楽しむ。

「お弁当の中身は、どんな物があるかな。」「お弁当屋さんをするには、何が必要かな。」などとみんなで話し合ってお弁当作りに取り組んだ。弁当箱に入れたい惣菜を作ったり、看板を作ったりお金も作った。早速お買い物ごっこが始まったが、いざこざが発生した。

A児「ぼく、たまごやき買いたかったけど、みんながたくさん買ったから買えなかった。」

B児「だって、みんな同じ物たくさん買うからだよ。」保育者「何かいい方法がないかしら。」

C児「たくさんある物は2個で、少ない物は1個がいいと思う。」

D児「10円で買えるのは、おにぎりとかウインナーが2個で、卵焼きとホットドッグが1個だね。」

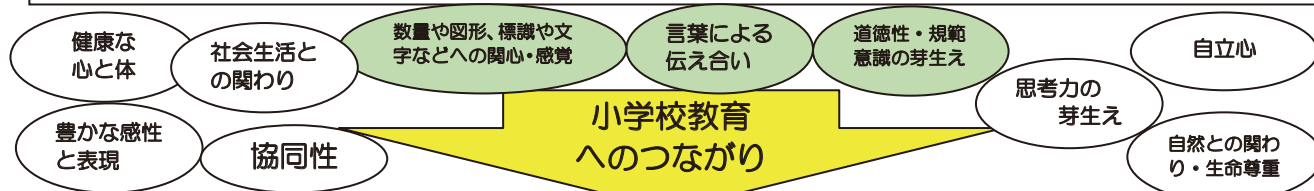
E児「野菜はたくさんあるから、3個にしたらいいよ。」と幼児が話し合っで決めた。

保育者は、10円で買える物を絵と文字にして黒板に貼ることにした。

翌日は、10円玉を6個持ち買い物に行く日である。何が買えるか考えながらお弁当を作り始めた。何度も黒板を見にきては、お店で品物を選ぶ姿があった。

### <文字や数に興味・関心をもち>

幼児が文字や数量に興味・関心をもちようになるためには、楽しく活動することを通して、数量や文字に関わる感覚を豊かにできるようにすることが大切である。上記のエピソードのように、絵や文字を使って看板を作ったり、数字を使ってお金を作ったりするなど、活動を楽しむうちに興味・関心がもてるようにしていく。買いたい物が買えないなどの困った場面が生まれたとしても、楽しく活動できるようにするために必要な数量を考えるなど、より数量や文字に関わる感覚を豊かにしていく。



### 国語科

#### 単元・領域

「どうぞ よろしく」

#### 目 標

- ・友達に知ってもらいたいことを考え、相手に分かりやすいように自己紹介をし合うことができる。(話・聞)
- ・相手によく分かるように、自分の名前などを丁寧に書くことができる。(書、伝国)

#### 主な学習活動

- ・「い・ち・ね・ん」と組や自分の名前を平仮名で書き、名前カードを作る。
- ・できるだけたくさんの友達と挨拶し、名前と好きなものを言って握手し、名前カードを交換する。
- ・友達から聞いたことを、他の仲間を紹介する。

### 算数科

#### 単元・領域

「10までのかず」

#### 目 標

10までの数の数え方、数字の読み方、書き方等を知るとともに、数の概念について理解することができる。

#### 主な学習活動

- ・一対一の対応をさせながら、絵の上におはじきを置く。
- ・おはじきの数と対応させながら数図ブロックに色を塗る。
- ・数図ブロックに合わせて数字を書き唱える。
- ・1から10までの数の大小を比べる。

## 5歳児 「ドッジボール遊び（活動名）」（人と関わる力）

時 期

10月

ね ら い

ルールや勝敗の意味が分かり、互いに力を合わせて運動遊びを楽しむ。

内 容

体を思いきり動かし、進んで運動しようとする。

運動会を終え、仲間と力を合わせて競い合う遊びに関心を向けていた。その日は、クラスで黄色チームとピンクチームに分かれて、ドッジボールの試合が始まった。

1回戦終了後、黄色チーム11人、ピンクチーム14人がコートに残った。大きな声で口を揃えて数え合った。負けた黄色チームは、悔しがり落胆していた。

「作戦タイムにしよう。」と保育者が声をかけると、円陣を組んで互いに作戦の練り合いが始まった。

黄色チームのA児は、「こうやって高くボールを投げて外にいる子に渡して、外の子が当てると中に入れるよ。」と地面にコートを書きみんなに説明を助けた。それに続いて、

B児「後ろを向いているうちにボールを投げると当てられるよ。」

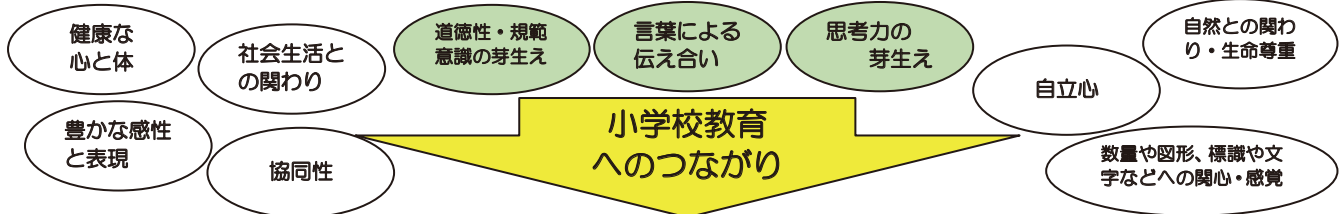
C児「投げてきたら、しっかりボールをキャッチしてとるといいよ。」

と、自然に話し合いが始まった。

2回戦は、黄色チームが積極的にボールに向かっていく姿があった。その表情はどの子ども真剣そのものであった。その結果、黄色チームは勝つことができ、幼児は「やったあ。」と体いっぱい喜びを表現していた。

### <友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう>

幼児が試行錯誤しながら考えを巡らせていく時間を十分与え、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを聞いたりしながら、勝ちたいという願いをみんなと共有し、友達と協力して遊ぶ楽しさを感じさせることが大切である。自分も友達も生き生きするような関係性を築いていきたい。



### 体育科

単元・領域

「ボールゲーム」

目 標

運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたりすることができる。また、簡単なきまりを工夫したり、攻め方を決めたりすることができる。

主な学習活動

- ・ボールを転がしたり投げたりして、ドッジボールをする。
- ・簡単なきまりを作って攻守を決め、集団で競争しながらのあてゲームをする。
- ・攻めと守りを交代しながら、ゴールにボールを投げ入れたり蹴り入れたりして、ゲームをする。

### 特別活動

単元・領域

「かかりをきめよう」

目 標

学級の生活を充実、向上させるために、必要とされる学級内の組織づくりや仕事の分担をし、互いに協力していこうとすることができる。

主な学習活動

- ・幼稚園や保育園等で行っていた係活動をもとにして、自分たちの学級にどのような係が必要か考える。
- ・みんなで話し合って一人一役の係を決める。
- ・自分の係は、みんなのためにどのようなことをすることができるか考え、実際にやってみる。

## 5歳児 「しっぽとり遊び（活動名）」（人と関わる力）

時 期

11月下旬

ね ら い

友だちと一緒に思いきり体を動かし、ルールある遊びを楽しむ。

内 容

友だちや保育者と自分の思いを伝え合いながらルールある遊びをする。

5人の仲間と保育者がしっぽとりをして遊ぶことになる。

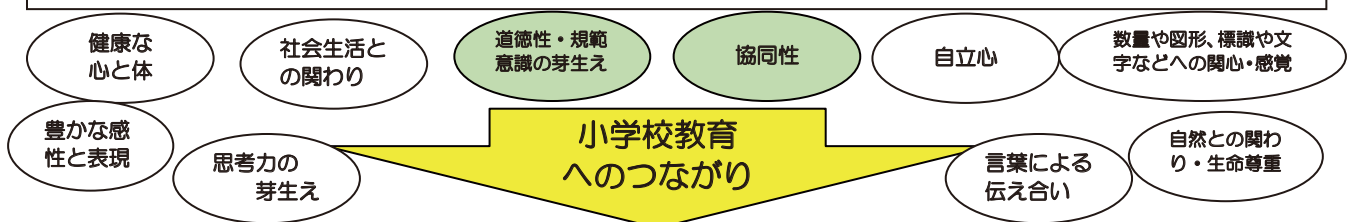
A男は、必死に逃げたり座り込んだりして、しっぽを取られないようにしていたが、A男のチームが負けてしまった。勝敗が決まった時は、悔しそうな表情を見せながら、「負けたっていいもん。」と悔しさを隠し切れずにいた。

2回戦が始まると、A男はしっぽをズボンの中にしまい始めた。他の子にも隠すよう促すため、相手チームは取ることができず、A男のチームが勝った。

すると、相手チームのB男が「だって、A男くんのしっぽないもん。取れるわけないやん。」「面白くないし。」と、A男たちに自分の思いを訴えた。保育者も遊んでいて楽しくなかったことを伝え、楽しい遊びにするにはどうすればよいかをみんなで話し合った。A男は、不満そうな表情を浮かべながらも、しっぽとりのルールは理解していたので、しっぽをズボンから出して3回戦に参加した。

### <折り返いをつけ、自分の気持ちを調整する>

幼児は、自分の思いを抑えられずにルールを守れなかったり、自分勝手にルールを変えてしまったりすることがある。ルールを守らなかったために起こった問題に気付かせ、ルールの必要性を幼児なりに理解できるようにし、理解した上で守ろうとする気持ちをもたせることが大切である。集団生活や友だちとの遊びを通して、楽しく生活するためにはルールがあることに気付き、それにしたがって自分を抑制するなどの自己統制力を徐々に身に付けていく。



### 特別活動

単元・領域

「やすみじかんのすごしかた」

目 標

学級のみんが安心して休み時間を過ごすためのルールを考え、決めることができる。

主な学習活動

- ・休み時間を過ごしていて、困ったことはないか話し合う。
- ・みんなが安心して休み時間を過ごすためにどのようなルールがあるとよいかを話し合う。
- ・みんなで確認した休み時間のルールを掲示物にして掲げる。

### 特別の教科 道徳

単元・領域

C12 規則の尊重  
資料名「きいろいベンチ」

目 標

みんなが使う物を大切に使う態度を養う。

主な学習活動

- ・何が問題になっているかを話し合う。
- ・汚れたスカートの泥をはらうおばあさんになりきって気持ちを発表する。
- ・みんなで使うものや場所はどのように使ったらよいかを話し合う。



## 5歳児 「劇遊び」(人と関わる力)

時期

3月

ねらい

仲間と協力し合って活動に取り組む。

内容

仲間と話し合ったり、役割を分担したりして目的に向かって活動することを楽しむ。

『3匹のヤギのガラガラドン』という絵本の話をもとに大きな絵を描き、秋のお店やさんごっこで映画に見立てて楽しんだ。幼児の興味が高まったので、映画で楽しんだ『3匹のヤギのガラガラドン』を今度は生活発表会で演じることにした。

音響、道具作り、配役は全員ができるように3つのグループを作り、どの役割もローテーションしながらみんなが楽しめるようにした。音響は、その場面の情景や雰囲気に合わせてリズムや打ち方を考え、シンバル、大太鼓、タンブリンなどの楽器を使って表現した。場面の雰囲気に合わないと、

「そこ、もっと大きなどーん！っていう音のほうがいいよ。」

「じゃあ、トルルが出てくるときは全部同じリズムにしたほうがいいんじゃない？」

「でも、最後に戦うところだけは、違うほうがいいと思う。」

など幼児同士で意見を出し合い変えていった。台詞では、

「ガラガラドンが怖がっている時は、もっと小さい声がいいと思う。」

「トルルは怖いんだから、ゆっくり大きなお父さんみたいな声がいいと思う。」

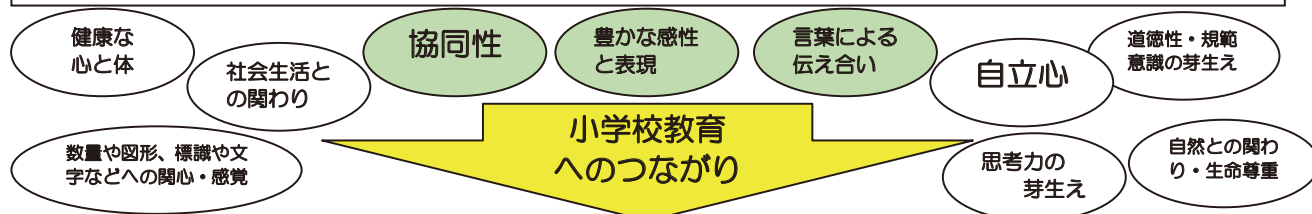
「Aくんのトルルの声、すごく怖そうやった！」

「じゃあ、真似してやってみる！」

など、表現についても意見が交わされ、考え直し変えていく姿や友達を認めほめる姿が見られた。発表会当日、幼児の迫真の演技や考え抜いた演出にたくさんの拍手が送られた。一人一人の力が大きな力となって成し遂げ幼児は達成感に満ちていた。

### <共通の目的に向かって力をあわせる>

幼児が互いの良さを生かしながら活動したり、遊んだりするようになるためには、共通の目的が生まれてくる過程や、試行錯誤しながら一緒に進めていく過程、いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切にしていけることが重要である。



### 音楽科

単元・領域

「うたで なかよしに なるう」

目 標

- ・友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする楽しさを感じ取りながら、音楽への興味や関心をもつ。

主な学習活動

- ・友だちと一緒に歌い方や体の動きを工夫しながら、音楽に合わせて歌ったり遊んだりする。
- ・曲に登場する動物や花の様子を思い浮かべ、歌詞の内容に合った歌い方や体の動きの工夫を生かして遊ぶ。

### 特別活動

単元・領域

「おたんじょうびしゅうかいをしよう」

目 標

誕生者と一緒に楽しむ集会の遊びはどのような遊びがあるのか話し合い、グループで協力して準備をすることができる。

主な学習活動

- ・これまでの遊びの中で、楽しかった遊びはどのような遊びだったか話し合う。
- ・誕生者が喜ぶにはどのような工夫をすればいいのか話し合う。
- ・グループで遊びのルールなどを考え、決める。

## 5歳児 「当番活動」(生活する力)

時期

6月下旬

ねらい

生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

内容

自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。

給食配膳やテーブル拭きなどの当番活動を各班の代表者でしていたが、仲のよい友達同士で協力することを願い、班ごとに輪番で担当することにした。

ある日、班内で仕事を分担して取り組み、早く終えたA児とB児が着席して待っていた時、A児「ねえ Cちゃんがまだやってるよ。」

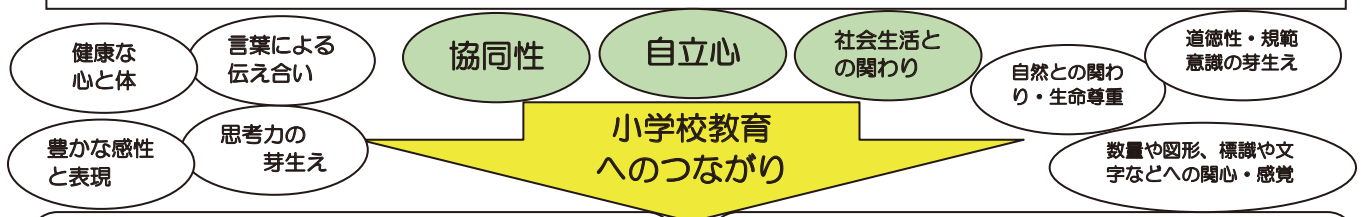
B児「うん。助けにいいうか。」と話し、まだ配膳をしているC児の仕事を手伝い始めた。

手伝ってもらったC児はうれしそうにお礼を言った。保育者はその様子を他児に伝え、自分の役割である仕事に責任をもち、やり遂げることはもちろん、班内で助け合うことも大切だと学級全員で話し合った。

その後の当番活動では自分の仕事を終わると「お助けマン」と言い合い、互いに手伝うようになった。

### <友達と一緒に生活をする中で、互いに協力し合う>

他の幼児と関わりながら生活をする楽しさや充実感を通して、自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気付く。また、単に友達と一緒に活動することにとどまらず、幼児同士が目的を共有し力を合わせることで、自分も他の幼児も生き生きとするような関係性を築いていくことになる。



### 特別活動

単元・領域

「かかりかつどうをもっとよくしよう」

目 標

係の仕事でできたことを振り返り、友達と一緒に活動するともっと楽しくなることに気づき、友達と一緒にできそうなことを考え、どのように手伝うのか決めることができる。

主な学習活動

- ・係の仕事を「ふりかえりかあと」で振り返る。
- ・忘れずにできたこと、最後までできたこと、友達と一緒にできたこと、などを発表する。
- ・一緒にできそうなことを考え、どう手伝うのか決める。

### 特別の教科 道徳

単元・領域

B9 友情、信頼  
資料名「二わのことり」

目 標

友達と一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを想起することで、友達と仲良くする態度を育む。

主な学習活動

- ・友達にしてもらってうれしかったことを発表する。
- ・一度はうぐいすの家に行くものの、さびしい思いをしているであろうやまがらのことを考えてみそさざいがこっそり抜け出す時の気持ちを役割演技する。
- ・今までに困っている友達を助けたことやその時の気持ちを発表する。

# 5歳児 「てつぼう あきらめない」(生活する力)

**時 期**

1 2 月

**ね ら い**

自分の目標に向かって、最後まであきらめずに頑張る気持ちをもつ。

**内 容**

自分なりの課題をもって、今までできなかったことに挑戦する。

“逆上がりができるようになりたい” A児は、鉄棒の前に行くと、ぐっと鉄棒を握り逆上がりに挑戦。「あー、できん・・もーっ!!」また挑戦するが失敗。これを何度も繰り返しているA児であるが、ふと隣で、逆上がりをいとも簡単にするB児の姿を目にした。

A児「ね、Bくん、どうして逆上がりできるの？ 僕何回やってもできんもん・・」

B児「僕だって最初はできんかったよ。あのね、手をぐっと曲げておへそを鉄棒に近づけるようにするといいよ。腕が真っすぐになったらいいかんよ。ぼく、見とったる。」

B児のアドバイスをもらい再び挑戦するが、できるようにはならなかった。それでもあきらめることはなく、毎日鉄棒のところにきては、逆上がりに挑戦した。ある日、

B児「先生、Aくんだいぶ足が上に上がるようになってきたんやよ。あとちょっとなんや。」

保育者「そうなの？ Aくん、ほんとにがんばってるよね。できるといいな。」「Aくん、がんばって!!」

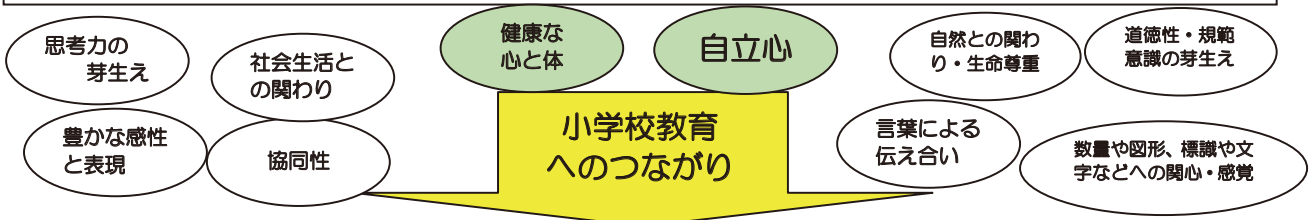
毎日の積み重ねは着実に成果となって表れ、蹴り上げた足がとうとう真上にまできた。そして次の挑戦で、蹴り上げた足は戻ることなく1回転し着地した。

A児「やったー!! できた!!」 B児「やったー!! みんな～Aくん逆上がりできたよ!」

A児とB児は飛び上がって喜んだ。その日の降園後、一目散に鉄棒に向かい、逆上がりを母親に見せていたA児は満面の笑みを浮かべていた。

### <繰り返し挑戦する>

自分なりの課題を見出し、それを乗り越えていくことで充実感や満足感を味わうことができる。取組の過程での葛藤や挫折などの体験を通して、幼児の「やり遂げたい」、「できるようになりたい」という気持ちを受け止め、励ます保育者や友達の支えが『あきらめず繰り返し挑戦する気持ちもてる環境』となる。



## 体育

**単元・領域**

「ゆうぐであそぼう」

**目 標**

ジャングルジムやうんていを使って、上り下り渡り歩きなどをして、遊ぶことができるようにする。また、順番や決まりを守り、安全に注意して楽しく遊べる仲間になる。

**主な学習活動**

- ・遊具で遊ぶときの約束を確認する。
- ・順番を守って遊ぶ。
- ・好きな遊具で遊ぶ（一緒に遊ぼう、競争しよう）。

## 特別の教科 道徳

**単元・領域**

A5 希望と勇気、努力と強い意志  
資料名「一にち十ぶん」

**目 標**

苦手なこともあきらめることなく、続けてがんばろうとする態度を育む。

**主な学習活動**

- ・主人公のできない気持ちに共感する。
- ・続けてがんばってできた気持ちを話し合う。
- ・がんばりたいことを発表し合う。

## 第2部

### 第2章 スタートカリキュラムの実際



# 1 スタートカリキュラムグランドデザイン

平成〇〇年度〇〇小スタートカリキュラムグランドデザイン

- ◎基本的な考え方
- ①一人一人の子どもの成長の姿から編成する。
  - ②子どもの発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫する。
  - ③生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る。
  - ④安心して自ら学びを広げる学習環境を整える。
  - ⑤職員全員で共通理解を図る。
- ◎遊びや生活、学習の4類型
- <ゆったりタイム>始業まで思い思いのやり方で過ごす自由な時間
  - <なかよしタイム>一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習
  - <わくわくタイム>合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習
  - <ぐんぐんタイム>教科等を中心とした学習
- ◎育てたい子どもの姿
- ①安心して自己を発揮する子ども
  - ②他者との関わりを楽しみ、豊かに広げようとする子ども
  - ③自分の思いや願いをもち、主体的に学ぶ子ども

<単元配列表>

	4月			
	第1週	第2週	第3週	第4週
算数			数字の学習(帯学習)	
		なかまづくりとかず なかまあつめをしよう くらべよう 5までのかず 10までのかず おおききくらべ		
国語		ひらがなの学習		
	あさ	なんて いおかな	うたにあわせて あいえお	ことばを つくろう
	どうぞよろしく	どんな おはなしかな	こえのおおきさ どうするの	
生活	なかよしいっぱいだいさくせん! ともだちいっぱい!たのしい 学校 〇〇のはてな みてみてきて わくわくどきどきがっこうたんけん なかよしになりたいな			
音楽		うたでなかよしになろう うたでさんぽ ぞうさんのさんぽ てとてであいさつ ひらいたひらいた		
図工	すきなものなあに?	学級目標をかこう	ねんどであそぼう	おひさまにここに
体育	ゆうぐであそぼう・なかよくあそぼう・運動会(かけっこ・リズム)			
道徳		1ねんせいになったよ	あいさつ	べんきょうが はじまりますよ
学活	なかよしいっぱい みんなでかえろう	きゅうしよくの じゅんぴをしよう	かかりをきめよう	そうじをやってみよう
行事	入学式	命を守る訓練	交通安全 教室	1年生を迎える会
	発育測定・内科等検診			

→ 合科・関連を図る  
↔ 教科・領域

## 2 スタートカリキュラム週案作成のためのスタンダード

		第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	時数計算表					
朝	1	朝の支度 ＜ゆったりタイム＞					教科等	前週	実施	累計		
		＜なかよしタイム＞ ・自己紹介・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう ・はてなを解決					国語	4	4			
2	＜なかよしタイム＞ ・手遊び、歌 ・入学式の事前指導	生	＜わくわくタイム＞ ・自己紹介をしよう ・教科書を見てみよう	生	＜わくわくタイム＞ ・たのしい学校 ・保健室についてみよう	生	＜わくわくタイム＞ ・たのしい学校 ・図書館に行こう	生	＜わくわくタイム＞ ・友達と遊ぼう ・「あさ」を輪になって読もう	理科	0	0
		生		生		国		国		生活	4 2/3	4 2/3
		国		行		国		国		音楽	0	0
3	行 入学式 行	生	＜わくわくタイム＞ ・たのしい学校 (行きたい場所を出し合う) ・下校の仕方	国	＜ぐんぐんタイム＞ ・初めて書いた名前	生	＜わくわくタイム＞ ・みつけたことを発表しよう	生	＜ぐんぐんタイム＞ ・遊具で遊ぼう ・かけっこをして遊ぼう	図工	1	1
		生		国		国		体		家庭	0	0
		学		国		国		体		体育	2/3	2/3
4	＜なかよしタイム＞ ・手遊び、歌 ・入学式の事後指導 ・自己紹介	生	＜わくわくタイム＞ ・たのしい給食 ・給食準備	生	＜わくわくタイム＞ ・たのしい給食 ・給食準備	国	＜ぐんぐんタイム＞ ・教科書を見てみよう「あさ」 ・給食準備	図	＜ぐんぐんタイム＞ ・すきなものなあに ・楽しかったことを描こう ・給食準備	外国語	0	0
		生		生		国		図		総合	0	0
		学		学		学		図		道徳	0	0
昼	下校指導						学活	1 1/3	1 1/3			
							小計	11 2/3	11 2/3			
							児童会	0	0			
5	行 行事 行	行	通学班会	行	行	行	行	行	なかよし	6	6	
		行		行	検診①	行	行	検診②	行事	4 1/3	4 1/3	
		行		行		行			総計	22	22	

		第6日	第7日	第8日	第9日	第10日	時数計算表					
朝	朝の支度 <ゆったりタイム>						教科等	前週	実施	累計		
	1	<なかよしタイム> ・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう・はてなを解決	<なかよしタイム> ・ペアじゃんけん	<なかよしタイム> ・ペアじゃんけん	<なかよしタイム> ・ペアじゃんけん	<なかよしタイム> ・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう	行 行 行	交通安全教室	国語 4 社会 0 算数 0	6 2/3 0 2 1/3	10 2/3 0 2 1/3	
2	生 生 生	<わくわくタイム> ・たのしい学校 ・前に話し合ったたんけんしたいところに行く。	<わくわくタイム> ・たのしい学校 ・前に話し合ったところたんけんに行く。	<わくわくタイム> ・たのしい学校 ・前に話し合ったところたんけんに行く。	<わくわくタイム> ・たのしい学校 ・みてみてきいて・なんていおうかな	生 生 国	<わくわくタイム> ・たのしい学校 ・1年生を迎える会の練習 ・みてみてきいて・どんなおはなしかな	理科 0 生活 4 2/3 音楽 0	0 4 1/3 2/3	0 9 2/3		
	生 国 国	・たんけんして見つけたことを発表したり、カードに書いたりする。	<ぐんぐんタイム> ・体ほぐし ・ボール遊びをしよう	生 国 国	<ぐんぐんタイム> ・ならびっこ ・リレーゲーム	体 体 道	<ぐんぐんタイム> ・1年生になったよ	図工 1 家庭 0 体育 2/3	1 0 2	2 0 2 2/3		
	算 算 学	<ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・給食準備	<ぐんぐんタイム> ・うたでさんぽ ・1年生を迎える会の練習 ・給食準備	算 算 学	<ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・給食準備	図 図 図	<ぐんぐんタイム> ・学級目標の絵をかこう ・自分の顔をかこう	算 算 算	外国語 0 総合 0 道徳 0	0 0 1	0 0 1	
昼	給食指導						学活	1 1/3	1	2 1/3		
							小計	11 2/3	19	30 2/3		
							児童会	0	0	0		
学 学 学	かかりをきめよう	行 行 行	命を守る訓練	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ・どんなおはなしかな	国 国 国	<ぐんぐんタイム> (書写)鉛筆の正しい持ち方	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ・うたにあわせてあいうえお	なかよし 6 行事 4 1/3 総計 22	5 2 26	11 6 1/3 48

		第11日	第12日	第13日	第14日	第15日	時数計算表						
朝	朝の支度 ＜ゆったりタイム＞						教科等	前週	実施	累計			
	1	行	1年生を迎える会	<p style="text-align: center;">＜なかよしタイム＞</p> ・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう ・はてなを解決						国語	10 2/3	5	15 2/3
行		社会								0	0	0	
行		算数								2 1/3	4	6 1/3	
2	国	<p style="text-align: center;">＜なかよしタイム＞</p> ・1年生を迎える会の感想を伝え合う。	<p style="text-align: center;">＜わくわくタイム＞</p> ・たのしい学校 ・2年生さんに聞こう ・見て見て聞いて	<p style="text-align: center;">体</p> 体 体 体	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・ならびっこ ・よいいどん 30m走	<p style="text-align: center;">国</p> 国 国 国	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	<p style="text-align: center;">国</p> 国 国 国	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	理科	0	0	0
	国									生活	9	3	12
	国									音楽	2/3	2	2 2/3
3	生	<p style="text-align: center;">＜わくわくタイム＞</p> ・たのしい学校 ・2年生に聞きたいこと ・見て見て聞いて	<p style="text-align: center;">生</p> 生 生 生	<p style="text-align: center;">＜わくわくタイム＞</p> ・たのしい学校 ・2年生さんに聞こう ・見て見て聞いて	<p style="text-align: center;">音</p> 音 音 音	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・うたでなかよしになろう ・ゴーゴーゴー	<p style="text-align: center;">図</p> 図 図 図	<p style="text-align: center;">算</p> 算 算 算	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・なかまづくりとかず ・数字の学習	図工	2	2	4
	生									家庭	0	0	0
	生									体育	2 2/3	1	3 2/3
4	国	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・どんなおはなしかな ・ひらがなの学習	<p style="text-align: center;">国</p> 国 国 国	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・うたにあわせてあいうえお ・ひらがなの学習	<p style="text-align: center;">道</p> 道 道 道	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・あいさつ	<p style="text-align: center;">図</p> 図 図 図	<p style="text-align: center;">学</p> 学 学 学	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・そうじをやってみよう	外国語	0	0	0
	国									総合	0	0	0
	国									道徳	1	1	2
昼	給食指導						学活	2 1/3	1	3 1/3			
							小計	30 2/3	19	49 2/3			
							児童会	0	0	0			
5	音	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・うたでなかよしになろう ・ゴーゴーゴー	<p style="text-align: center;">算</p> 算 算 算	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・なかまづくりとかず ・数字の学習	<p style="text-align: center;">算</p> 算 算 算	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・なかまづくりとかず ・数字の学習	<p style="text-align: center;">算</p> 算 算 算	<p style="text-align: center;">＜ぐんぐんタイム＞</p> ・なかまづくりとかず ・数字の学習	家庭訪問	なかよし	11	4	15
	音									行事	6 1/3	1	7 1/3
	音									総計	48	24	72



	第16日	第17日	第18日	第19日	第20日	時数計算表			
朝	朝の支度 <ゆったりタイム>		<なかよしタイム> ・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう ・はてなを解決			教科等	前週	実施	累計
	1	<なかよしタイム> ・朝の会 ・みんなで歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・お話を聞こう ・お話をしよう ・はてなを解決		算 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	生 <わくわくタイム> ・たのしい学校 ・先生となかよし ・見て見て聞いて	国 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	国語	15 2/3	5 2/3
2	生 <わくわくタイム> ・たのしい学校 ・先生となかよし ・見て見て聞いて	生 <わくわくタイム> ・たのしい学校 ・先生となかよし ・見て見て聞いて	体 <ぐんぐんタイム> ・よいい どん 30m走 ・リレーゲーム ・リズム	国 <ぐんぐんタイム> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	算 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	理科	0	0	0
	生	生	体	国	算	生活	12	2 2/3	14 2/3
	生	生	体	国	算	音楽	2 2/3	2	4 2/3
3	算 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	音 <ぐんぐんタイム> ・うたでなかよしになろう ・ゴーゴーゴー	道 <ぐんぐんタイム> ・ペンきょうががはじまりますよ	図 <ぐんぐんタイム> ・おひさまにここに	体 <ぐんぐんタイム> ・よいい どん 30m走 ・リレーゲーム ・リズム	図工	4	2	6
	算	音	道	図	体	家庭	0	0	0
	算	音	道	図	体	体育	3 2/3	2	5 2/3
4	国 <ぐんぐんタイム> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	算 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	国 <ぐんぐんタイム> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	図 <ぐんぐんタイム> ・おひさまにここに	国 <ぐんぐんタイム> ・言葉を作ろう ・ひらがなの学習	外国語	0	0	0
	国	算	国	図	国	総合	0	0	0
	国	算	国	図	国	道徳	2	1	3
昼	給食指導					学活	3 1/3	0	3 1/3
	給食指導					小計	49 2/3	20	69 2/3
	給食指導					児童会	0	0	0
家庭訪問	家庭訪問		国 <ぐんぐんタイム> (書写)鉛筆の正しい持ち方	算 <ぐんぐんタイム> ・なかまづくりとかかず ・数字の学習	音 <ぐんぐんタイム> ・うたでなかよしになろう ・ゴーゴーゴー	なかよし	15	3	18
	家庭訪問		国	算	音	行事	7 1/3	0	7 1/3
	家庭訪問		国	算	音	総計	72	23	95

### 3 スタートカリキュラム指導例



# スタートカリキュラムのある日の1日の流れ



# わくわく どきどき がっこうたんけん

【生活科】 内容 (1) 学校と生活 (5) 季節の自然と生活

【図画工作】 A表現 (2)

☆ねらい

【生活科】

学校の施設の様子および先生など、学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活などができるようにする。

【図画工作科】

クレヨンやパスを使いながら、好きなものを、好きな形や色で表し方を工夫してかくことを楽しむことができるようにする。

活動の流れ	指導・援助・留意点
<p>1 2時限目 〈 わくわくタイム 〉  <u>こうていをたんけんしよう</u> 生活科</p> <p>○校庭で探検するときの約束を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育をしている子たちがいるから、じゃまにならないようにしよう。</li> <li>・学校の外には出てはいけないよ。</li> </ul> <p>○校庭で、施設を見つけたり、動植物を探したり、友達と遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花びらを拾おう。</li> <li>・池にはお魚がいるかな。</li> <li>・「はないちもんめ」をしようよ。</li> <li>・鬼ごっこもしたいな。</li> <li>・タイヤとびをしたいな。</li> </ul>	<p>○他教科等の単元や題材、主題等の目標や内容をつかんでおく。児童の様子に応じて、柔軟にその場で指導したり活動したりできるようにする。</p> <p>○春みつけや、施設の探検だけでなく、友達と楽しく遊ぶことも認める。</p> 
<p>2 3, 4時限目 〈 ぐんぐんタイム 〉  <u>すきなものなあに</u> 図工・国語</p> <p>○校庭で見つけたものやしたことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クローバーを見つけました。</li> <li>・池にオタマジャクシがいました。</li> <li>・建物のうらに畑がありました。</li> <li>・みんなと鬼ごっこをしたのしかったです。</li> <li>・友達と一緒に花を見ました。</li> <li>・タイヤでじゃんけんをして遊びました。</li> </ul> <p>○見つけたものや楽しかった遊びを自由にかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューリップをかこう。</li> <li>・メダカをかきたいな。</li> <li>・一緒に遊んだ友達の顔をかこう。</li> <li>・鬼ごっこが楽しかったからかいたよ。</li> <li>・見つけたものをたくさんかこう。</li> </ul>	<p>○個人差に配慮して、誰もが安心して発言できるようにする。</p> <p>○「たんけんして見つけたことを表現したい。」という気持ちを大切にして、自由に話すことができるようにする。</p>  <p>○作品を作るというよりも、幼稚園や保育園等でかくことを楽しんだときの感覚を大切にし、思いのままにかくことを楽しませたい。</p> <p>○「これは、なあに?」「どうしてこれをかいたの?」と教師が問いかけることによって一人一人の絵に込めた思いを引き出す。</p>

ポイント①  
児童の意識の流れや願いを大切に  
する。

ポイント②  
教科等学習へのつながりを見  
通す。

ポイント③  
幼稚園や保育園等でかくこ  
とを楽しんだ時の感覚を大  
切にする。

# わくわく どきどき がっこうたんけん

[生活科] 内容 (1) 学校と生活 (8) 生活やできごとの交流 [国語] 「話すこと・聞くこと」(1) イ

☆ねらい



[生活科]

学校の施設の様子および先生など、学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、たのしく安心して遊びや生活などができるようにする。

[国語科]

「話すこと・聞くこと」

(1) イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すことができるようにする。

活動の流れ	指導・援助・留意点
<p>1 2時限目 ( わくわくタイム )</p> <p><b>がっこうたんけんに行こう</b> 生活科</p> <p>○今日、学校探検に行く場所を話し合う。 ・今日は、音楽室とパソコン室に行こう。</p> <p>○探検に行くときの約束を出し合う。 ・にんじゃ歩きをするよ。 ・大きい子たちの迷惑になるから、おしゃべりなしだよ。 ・廊下は、2列で歩くよ。</p> <p>○2列に並んで、学校探検に行く。 ・大きなピアノがあるよ。 ・ステレオがあるよ。 ・パソコンがいっぱいあるね</p>	<p>○学校マップを使って、今日学校探検に行く場所を確認する。</p> <p>○学校探検の約束を確認するときは、幼稚園や保育園等での経験を振り返ることができるようにする。</p> 
<p>2 3時限目</p> <p><b>なんていおうかな</b> 国語 ( ぐんぐんタイム )</p> <p>○音楽室とパソコン室で見つけたことを「～がありました」「～を見つけました」という話し方で話す。 ・音楽室に、ピアノがありました。 ・たいこやすずを見つけました。 ・パソコン室にはパソコンがたくさん置いてありました。 ・パソコン室の黒板は白色でした。</p>	<p>○「さっき探検で見つけたことをなんて言ったらよいでしょう」と発問する。</p> <p>○「探検して見つけたことを話したい」という気持ちを大切にして、国語科における「話す・聞く」の学習へとつなげる。</p> 
<p>3 4時限目</p> <p><b>見つけたことを書こう</b> 国語</p> <p>○見つけたことをワークシートにかく。 ・ピアノの絵をかこう。 ・絵のとなりに、言葉も書こう。</p> <p>○次に、学校探検に行きたいところについて話し合う。 ・次の探検も楽しみだな。 ・学校は楽しいな。</p>	<p>○文字を書きたい子もいるので、文字表を使えるように保管場所を伝えておく。</p> <p>○学校探検を通して、安心感と学校生活への期待をもつことができるようにする。</p>

ポイント①  
学校マップを拡大した掲示物を活用する。探検を振り返ったり、次の探検場所を確認したりするのに便利である。

ポイント②  
幼稚園や保育園等での経験を活かす。

ポイント③  
合科的・関連的指導により各教科への興味や関心を高める。

# わくわく どきどき がっこうたんけん

【生活科】 内容（1）学校と生活 （8）生活やできごとの交流 【音楽】 A表現（1）ア、イ



☆ねらい

【生活科】

学校の施設の様子および先生など、学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活などができるようにする。

【音楽科】

友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする楽しさを感じ取りながら、音楽への興味や関心をもてるようにする。

活動の流れ	指導・援助・留意点
<p>1 3時限目〈わくわくタイム〉</p> <p><b>がっこうたんけんをしよう 生活科</b></p> <p>○今日学校探検する場所を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は音楽室だ。</li> <li>・どんなものがあるか、楽しみだな。</li> <li>・声〇、足音〇で行こう。</li> </ul> <p>○音楽室探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなピアノがあるよ。</li> <li>・楽器がいっぱいあるね。弾いてみたいな。</li> <li>・大きな箱がある。これはなあに？</li> </ul> <p>○音楽室で見付けたものについて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に線が引いてあった。黒板が動いたよ。</li> <li>・教室が広がった。</li> <li>・音楽室で歌ってみたいな。</li> </ul>	<p>○学校マップの掲示物に学校探検に行った場所や見付けた物を書き込んでいき、学習の足跡として掲示する。</p> 
<p>2 4時限目〈ぐんぐんタイム〉</p> <p><b>うたでさんぽ 音楽</b></p> <p>○音楽室で、じゃんけん列車をして楽しむ。</p> <p>○教科書の挿絵の中から知っている曲を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「犬のおまわりさん」の絵を見つけたよ。</li> <li>・「ちょうちょ」の絵もあるよ。</li> <li>・幼稚園で歌ったことがあるよ。歌いたいな。</li> </ul> <p>○音楽室のステレオで曲を流し、歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな音が出るね。楽しいね。</li> <li>・楽器も演奏したいな。</li> </ul> <p>○曲に合わせて身体表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありさんになってごっつんこしよう。</li> <li>・ぞうさんのお鼻のまねをしよう。</li> <li>・メダカさんになって泳ごう。</li> <li>・歌にあわせて踊るのは、楽しいな。</li> </ul> <p>○大きい動作をすることができていた子の発表を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕を大きく振ると、長い鼻のぞうさんに見えるね。</li> <li>・本当にメダカさんが泳いでいるみたい。</li> </ul> <p>○もう一度曲に合わせて大きい動作で身体表現を楽しむ。</p>	<p>○「音楽室で歌ってみたい」という願いを次の音楽の授業につなげる。</p>  <p>○身体表現では、児童の自由な発想を認める。</p> <p>○曲に合わせて大きく動くことができていた児童を紹介し、広める。</p>

ポイント①  
音楽室の広さを生かして、「なかよしタイム」で行った活動ができるようにする。

ポイント②  
最初から教え込まないで、児童からどのようにしたらよいか、考えを出すことができるように問い返す。

# わくわく どきどき がっこうたんけん

[生活科] 内容(1)学校と生活 (8)生活やできごとの交流 [体育] B 器械・器具を使つての運動遊び ア 固定施設を使った運動あそび

☆ねらい


[生活科]

学校の施設の様子および先生など、学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活などができるようにする。

[体育科]

B 器械・器具を使つての運動遊び

- ・ジャングルジムとうんていを使って、登り下り、渡り歩きなどをして遊ぶようにする。
- ・順番やきまりを守り、安全に注意して楽しく遊べるようにする。

活動の流れ	指導・援助・留意点
<p>1 3時限目〈わくわくタイム〉</p> <p><b>ゆうぐたんけんをしよう 生活科</b></p> <p>○遊具探検をすることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場には、てつぼうやうんていがあったよ。</li> <li>・幼稚園の時よりジャングルジムが高いね。</li> <li>・遊んでみたいな。</li> </ul> <p>○遊具で思い思いに遊ぶ。</p> <p>○遊んでみて気付いたことや困ったことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイヤは、両方から歩いてくるとぶつかっちゃう。</li> <li>・そういうときは、じゃんけんをするといいよ。</li> <li>・ブランコで待っていたけれど、なかなか代わってくれなかった。</li> <li>・20数えたら替わるようにしたらどうかな。</li> </ul> <p>○みんなで決めた約束を守って遊ぶ。</p> <p>2 4時限目〈ぐんぐんタイム〉</p> <p><b>ゆうぐであそぼう 体育</b></p> <p>○ジャングルジムで一番上の棒にタッチして下りてくる。</p> <p>○どんな工夫をしたらうまく上まで登れたかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・棒をしっかりと持ったよ。</li> <li>・足をしっかりとかけたよ。</li> <li>・1・2・1・2と登ったよ。</li> </ul> <p>○もう一度ジャングルジムの一番上の棒にタッチして下りてくる。</p> <p>○うんていあそびの時は、どんな工夫をしたらうまくゴールまで渡れたか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりと棒をもつんだよ。</li> <li>・足をふったよ。</li> <li>・1・2・1・2とつかんだよ。</li> </ul> <p>○順番にうんていで渡り歩きをする。</p> <p>○好きな遊具で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊ぼう。</li> <li>・競争しよう。</li> </ul>	<p>○児童の願いを十分に引き出す。</p> <p>○まずは遊んでみて、困ったことがあったときに、話し合いルールを自分たちで決めていくようにする。</p>  <p>○一度に全員で登ると危険なので、6人～8人ぐらいずつ登るようにする。</p> <p>○親指を中に入れてしっかりと棒を握るということを児童から引き出し、安全に気を付けて遊具遊びができるようにする。</p>  <p>○うんていで渡り歩きができない子は、「5秒間ぶら下がる」でもよいことを伝える。</p> <p>○活動の中で自然に友達が増えていくように声をかける。</p>

ポイント①  
幼児教育の時のように、遊びの中から児童自身でルールを作っていくようにする。

ポイント②  
安全に注意して遊ぶ姿や友達と仲よく遊ぶ姿を認める。

# なつと なかよし

[生活科] 内容(5) 季節の自然と生活 (6) 自然や物を使った遊び [図画工作] 造形遊びをする活動





☆ねらい

[生活科]

体全体を使って水と戯れたり、水を利用して遊ぶおもちゃを工夫して作ったりしながら、水の性質の不思議さや面白さに気づき、友達と遊びを楽しむことができるようにする。

[図画工作科]

- ・砂や土の感触を十分に味わいながら、造形的な活動を思い付き、楽しむ。
- ・作品を見合って、感じたことを話したり、友だちの話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くことができるようにする。

活動の流れ	指導・援助・留意点
<p>1 2～3時限目 〈 わくわくタイム 〉  <b>水であそぼう 生活科</b></p> <p>○砂遊びの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな山をつくってトンネルを掘りたいな。</li> <li>・川をつくってそこに水を流したい。</li> <li>・プリンカップやバケツで型抜きをしたい。</li> <li>・お城をつくりたい。</li> </ul> <p>○砂や土の感触を十分に味わいながら、掘ったり、並べたり、積んだりしてつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に大きな山を完成させよう。</li> <li>・二人の川をつなげよう。</li> <li>・もっともっと町を大きくしようよ。</li> </ul> <p>○砂遊びをして楽しかったことや分かったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんといっしょに山をつくって楽しかったよ。</li> <li>・友達の川とぼくの川をつなげて、楽しかったよ。</li> <li>・長い川は水をたくさん使ったよ。</li> <li>・泥水は、コーヒーみたいな色だよ。</li> <li>・泥水を触るとぐにゅとして気持ちがいいよ。</li> </ul>	<p>○黒板を砂場に見立てて、どこにどんなものを作りたいかを話し合う。</p>  <p>○計画を思い出し、活動の中で自然に友達が増えていくように声をかける。</p>  <p>○活動後、言葉で表現することで、気づきを自覚できるようにする。</p> 
<p>2 4時間目 〈 ぐんぐんタイム 〉  <b>すなやつちとなかよし 図工</b></p> <p>○お互いの作品を鑑賞し、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山が大きくてかっこいいです。</li> <li>・高いお城が素敵です。</li> <li>・川が山のトンネルにつながっているのいいです。</li> <li>・サラサラの砂があったので、上からふりかけたよ。</li> </ul>	<p>○活動後、言葉で表現することで、気づきを自覚できるようにする。</p>  <p>○互いに作品を見合い、よさを認め合う場を設定する。</p>

ポイント①  
幼稚園や保育園等でやって楽しかったことを聞き出すようにする。

ポイント②  
友達と協同で活動することで、更に発想が広がるようにする。

ポイント③  
言語活動を取り入れる。

ポイント④  
他教科とのつながりを考える。

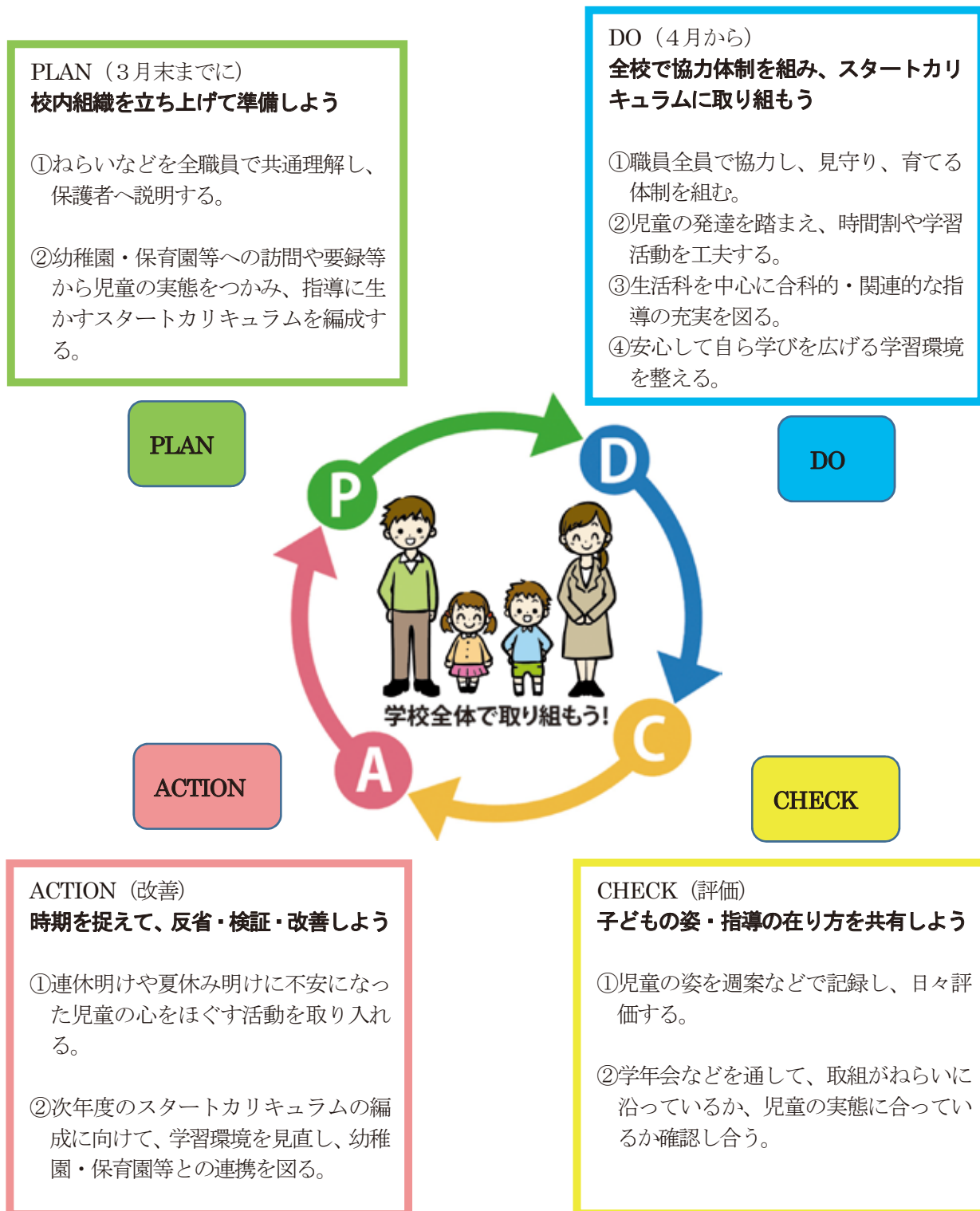


## 4 スタートカリキュラムのマネジメント

スタートカリキュラムを推進していくためには、管理職のリーダーシップのもと、学校体制で行い、「ついでに終わり」にならないように、マネジメントを行うことが重要です。

まず、既存の校務分掌を生かして、スタートカリキュラムの校内組織を立ち上げ、1年生の担任だけに任せるのではなく、全校体制でスタートカリキュラムを編成・実施します。

実践したら、児童の姿で指導の在り方を評価し、その評価をもとに、時期をとらえて、次年度に向けてカリキュラムの改善を図りましょう。



## 参考文献等

- ・ 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方についての報告  
(文部科学省 平成22年)
- ・ 「壁をトル つなぐ つながる 幼児期と児童期の接続カリキュラムの開発～子ども  
の育ちと学びをつなぐために～」(善野八千子著 Mj-Books 出版 平成23年)
- ・ ひめじ保幼小連携教育カリキュラム(姫路市教育委員会 平成23年)
- ・ 横浜版接続期カリキュラム 育ちと学びをつなぐ  
(横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会 平成24年)
- ・ 草加市 幼保小接続期モデルプログラム(草加市教育委員会 平成26年)
- ・ みなときっずなび「育ちと学び」をつなぐ小学校入学前教育カリキュラム  
(港区・港区教育委員会 平成27年)
- ・ 福井県保幼小接続プロジェクト「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム」  
(福井県幼児教育支援センター 平成27年)
- ・ スタートカリキュラムスタートブック  
(文部科学省 国立教育政策研究所 平成27年)
- ・ 保幼小接続スタンダード「豊かな育ちにつながる保幼小接続に向けて」  
(岡山県教育委員会 平成28年)
- ・ 学びに向かって突き進む1年生を育てる  
(松村英治著 東洋館出版社 平成30年)
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領  
(内閣府 文部科学省 厚生労働省 平成29年)
- ・ 幼稚園教育要領(文部科学省 平成29年)
- ・ 保育所保育指針(厚生労働省 平成29年)
- ・ 小学校学習指導要領(文部科学省 平成29年)
- ・ 小学校学習指導要領解説(文部科学省 平成29年)
- ・ 幼稚園教育要領解説(文部科学省 平成30年)

## おわりに

いよいよ4月から、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」が施行されます。

国立・公立・私立、幼稚園や保育所、認定こども園、小学校という枠を越えて、幼児期の教育と小学校のつながりが、「連携」から「円滑な接続」に深化するためには、子どもの姿や現場の願いに沿う「カリキュラム」と「研修」を連動させた取組を行うことが大切です。

「岐阜県版接続期カリキュラム」が、各園、学校におけるカリキュラム作成における指針となったり、研修会等で活用されたりすることにより、子どもたち一人一人の豊かな育ちにつながることに役立てばと願っています。


平成30年3月

岐阜県幼保小連携資料作成委員会



### 《委員》

安藤 みほ	可児市立今渡南小学校 教諭
伊藤 千恵	大垣市立青墓幼保園 主任
大山 夏生	山県市立伊自良南小学校 教頭
鈴木 公二	本巣市立弾正幼児園 副園長
高橋佐知子	岐阜市立長森西小学校 教諭
田口めぐみ	瑞穂市立中小学校 教諭
辻 道代	岐阜市立岐阜東幼稚園 教頭
堀部 圭子	中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園 副園長
山下 早苗	海津市立西島保育園 副園長



第2次 岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン  
～育ちや学びがつながる・深まる  
岐阜県版接続期カリキュラム～

編集発行 岐阜県教育委員会事務局学校支援課  
〒500-8570  
岐阜県岐阜市藪田南2-1-1  
T E L 058-272-1111 (代表)  
F A X 058-272-2822  
Eメール c17782@pref.gifu.lg.jp

